

(様式第10)

神 大 医 患 第 4 6 号
令 和 2 年 1 0 月 1 日

厚生労働大臣 田村 憲久 殿

開設者名
国立大学法人神戸大学長
武 田 廣 (印)

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 元 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1 - 1
氏 名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

神戸大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 5 - 2	電話 (078) 382-5111
--------------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ ☐ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科 ② 消化器内科 ③ 循環器内科 ④ 腎臓内科	
5 神経内科 ⑥ 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科	
⑨ 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11 リウマチ科	
診療実績	
「神経内科」の診療内容は脳神経内科、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病内分泌内科、「代謝内科」及び「リウマチ科」の診療内容は「内科」、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は「内科」、「呼吸器内科」、「皮膚科」等で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☐ 有 ・ ☒ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	2 消化器外科
3 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
7 内分泌外科	⑧ 小児外科
診療実績 「消化器外科」の診療内容は食道・胃腸外科、「乳腺外科」及び「内分泌外科」の診療内容は乳腺・内分泌外科で提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	12 放射線科	13 放射線診断科	14 放射線治療科	⑮ 麻酔科
⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☐ 有 ・ ☒ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	② 矯正歯科
3 口腔外科	
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍・血液内科	2 肝臓・胆のう・膵臓外科	3 耳鼻いんこう頭頸部外科	4 美容外科	5 形成外科
6 放射線腫瘍科	7 病理診断科	8 脳神経内科	9 リハビリテーション科	10 糖尿病内分泌内科
11 食道・胃腸外科	12 乳腺・内分泌外科	13 歯科口腔外科	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
46 床	床	床	床	888 床	934 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	631 人	239 人	747.6 人	看護補助者	35 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	14 人	25 人	31.1 人	理学療法士	18 人	臨床検査技師	84 人
薬 剤 師	75 人	0 人	75 人	作業療法士	7 人	検査衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	9 人	その他	0 人
助 産 師	46 人	0 人	46 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	880 人	12 人	888.2 人	臨床工学士	32 人	医療社会事業従事者	16 人
准看護師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	41 人
歯科衛生士	5 人	0 人	5 人	歯科技工士	2 人	事 務 職 員	248 人
管理栄養士	12 人	1 人	12.5 人	診療放射線技師	57 人	その他の職員	36 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	91 人	眼 科 専 門 医	10 人
外 科 専 門 医	72 人	耳鼻咽喉科専門医	14 人
精 神 科 専 門 医	10 人	放 射 線 科 専 門 医	30 人
小 児 科 専 門 医	25 人	脳神経外科専門医	11 人
皮 膚 科 専 門 医	8 人	整 形 外 科 専 門 医	32 人
泌尿器科専門医	27 人	麻 酔 科 専 門 医	24 人
産婦人科専門医	17 人	救 急 科 専 門 医	8 人
		合 計	379 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 平田 健一) 任命年月日 平成30年 2月 1日

医療安全管理委員会委員長 (平成30年 2月 1日～令和 2年 3月31日)
医療安全管理委員会委員 (平成25年10月 1日～平成30年 1月31日、令和 2年 4月 1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	730.3 人	13.3 人	743.6 人
1日当たり平均外来患者数	1,801.0 人	91.8 人	1,892.8 人
1日当たり平均調剤数	1,416.0 剤		
必要医師数	183.0 人		
必要歯科医師数	7.0 人		
必要薬剤師数	26.0 人		
必要（准）看護師数	452.0 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	663.60 m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	36 床	心電計	☒ 有 ・ ☐ 無
			人工呼吸装置	☒ 有 ・ ☐ 無	心細動除去装置	☒ 有 ・ ☐ 無
			その他の救急蘇生装置	☒ 有 ・ ☐ 無	ペースメーカー	☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積		35.30 m ²	病床数	5 床 (クラス100)	
			722.35 m ²	病床数	63 床 (クラス100以外)	
	[移動式の場合] 台 数		4 台			
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積		36.00 m ²			
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	438.00 m ²		(主な設備)	自動臨床化学分析装置		
細菌検査室	88.00 m ²		(主な設備)	微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置		
病理検査室	278.00 m ²		(主な設備)	クリオスタット, ウルトラミクロトーム, 染色装置		
病理解剖室	67.00 m ²		(主な設備)	解剖台, オートクレーブ, 写真撮影機		
研 究 室	430.00 m ²		(主な設備)			
講 義 室	1,217.00 m ²		室数	6 室	収容定員	1,082 人
図 書 室	2,145.00 m ²		室数	1 室	蔵書数	約15万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		86.30 %	逆紹介率		53.50 %
算出根拠	A：紹介患者の数			19,568 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			12,848 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,134 人	
	D：初診の患者の数			23,998 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診療 部長/内科主任科部長 /医療安全管理部長/ 医療安全推進室長	○	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他 の学識経験を有する 者	☐ 有 ・ ☒ 無	1
丸山 英二	京都府立医科大学大学院 医学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他 の学識経験を有する 者	☐ 有 ・ ☒ 無	1
武田 高	関西住宅品質保証株式会 社監査役 (非常勤)		医療を受ける者その 他の医療従事者以外 の者	☐ 有 ・ ☒ 無	2
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	1人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	11人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	0人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	0人
周術期カルベリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺がん(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	0人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【外科的治療を実施する施設】	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	5人
ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	広汎子宮頸部摘出術(腹式もしくは腹腔鏡下)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 脈管侵襲を伴うⅠA1期もしくはⅠA2期以降の子宮頸がんの標準的な治療の主体は子宮全摘術となってくるが、比較的若年者が多い子宮頸がんの治療において妊孕性温存の可否が問題となり、適切な症例選択の上で広汎子宮頸部摘出術が選択肢として挙げられる。治療効果として、後方視的解析で腫瘍径が同等であれば根治術である広汎子宮全摘術と治療成績は変わらないとする報告が多数みられている。なお、広汎子宮頸部摘出術を計画していても術中迅速検査において切除断端から病巣まで5mm以上確保できない、もしくは術者が子宮温存が困難であると判断した場合は根治術に変更する必要がある。手術方法として腹式、腔式、腹腔鏡下などが報告されているが、いずれの方法でも治療成績や術後の妊娠率においてははっきりとした有意差は報告されていない。			
医療技術名	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 子宮筋腫や子宮腺筋症などで子宮全摘が必要となる場合、開腹手術、腔式手術もしくは腹腔鏡手術行われていた。開腹手術と腹腔鏡手術の適応の差は厳密には定義されていないが、可能な症例では低侵襲手術である腹腔鏡手術が第一選択となっている。しかし、腹腔鏡手術は手技の困難さなどから手技習得に時間を要するの事実である。ロボット支援下手術は腹腔鏡手術に比べて拡大視が可能であり、婦人科手術の様な骨盤最深部の手術に適していると言われている。悪性腫瘍手術におけるロボット支援下子宮全摘術と腹腔鏡手術の比較では、開腹移行率、合併症、出血量、入院期間でロボット手術が優れており、手術時間、輸血率、リンパ節摘出数には差がないことが示されており、良性疾患でも腹腔手術と同等以上の治療成績となることが予想される。			
医療技術名	ロボット支援下直腸切除・切断術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 直腸癌に対するロボット支援手術は、従来の開腹手術や腹腔鏡手術と比較して、より繊細な手術操作が可能となるため、排尿障害や性機能障害などの自律神経障害発生の軽減が期待できる。予測される合併症は、術後縫合不全と術中出血が挙げられるが、それらのリスクを最小限にするため、術中大腸内視鏡で縫合不全テストを行い、陽性であった場合は縫合による補強を追加する。この処置は腹腔鏡よりもロボット手術の方が優れていると考えられる。術中出血は、万一生じれば圧迫止血や電気凝固止血を行う。それらでコントロール不能の場合は縫合止血を行うが、この場合も、通常の腹腔鏡手術よりもロボット手術の方が優れていると考えられる。			
医療技術名	左心耳閉鎖術「WATCHMANTM左心耳閉鎖システム」	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 本品は本邦初の新規デバイスであり、左心耳内でカテーテル操作をするような手技は初めてである。脳梗塞を予防するため抗凝固薬を内服した方が良いが、出血等の危険性のため長期間内服を継続できない患者に対し、血栓の出来やすい左心耳を左心耳閉鎖デバイスで閉鎖する。術後の経過観察の検査を行い左心耳の閉鎖が確認できれば、抗凝固薬を休止することができる。血栓の出来やすい左心耳を閉鎖しているため、抗凝固薬を休薬した後も、抗凝固薬を内服している間と同等に脳卒中のリスクを低減できる可能性がある。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 肝切除をロボット支援下腹腔鏡下に行う。すでに保険収載されている他臓器での検討および、肝胆膵領域での海外の報告から、腹腔鏡下手術に比べて手ブレが少なくより精緻な操作が可能であり、手術の安全性、低侵襲性、腫瘍学的に過不足ない切除が可能と考えられる。胆汁瘻、出血、肝不全などの術後合併症や術後入院期間は開腹手術に比べて低減・短縮、腹腔鏡下手術に比べて同等または低減・短縮すると考えられる。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下膵腫瘍核出術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 膵切除をロボット支援下腹腔鏡下に行う。すでに保険収載されている他臓器での検討および、肝胆膵領域での海外の報告から、腹腔鏡下手術に比べて手ブレが少なくより精緻な操作が可能であり、手術の安全性、低侵襲性、腫瘍学的に過不足ない切除が可能と考えられる。膵瘻、出血、腹腔内膿瘍などの術後合併症や術後入院期間は開腹手術に比べて低減・短縮、腹腔鏡下手術に比べて同等または低減・短縮すると考えられる。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 膵切除をロボット支援下腹腔鏡下に行う。すでに保険収載されている他臓器での検討および、肝胆膵領域での海外の報告から、腹腔鏡下手術に比べて手ブレが少なくより精緻な操作が可能であり、手術の安全性、低侵襲性、腫瘍学的に過不足ない切除が可能と考えられる。膵瘻、出血、腹腔内膿瘍などの術後合併症や術後入院期間は開腹手術に比べて低減・短縮、腹腔鏡下手術に比べて同等または低減・短縮すると考えられる。			
医療技術名	経皮的卵円孔開存閉鎖術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 これまで卵円孔開存に対する専用の閉鎖栓は存在せず心房中隔欠損に対する閉鎖栓を代用してきた。今回承認された新規のデバイスは日本で初めて承認された卵円孔閉鎖デバイスであり、心原性脳梗塞に起因する脳梗塞の再発予防効果が認められている。カテーテルを用いて経皮的に手技が行えることから既存の外科手術と比較し低侵襲かつ短時間で実施出来る。また、重篤な合併症として心侵食、デバイスの逸脱が考えられるがその発生率は低く安全である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	11	56	ベーチェット病	135
2	筋萎縮性側索硬化症	13	57	特発性拡張型心筋症	123
3	脊髄性筋萎縮症	24	58	肥大型心筋症	120
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	21
6	パーキンソン病	342	61	自己免疫性溶血性貧血	15
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	72
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	24	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	170	66	IgA 腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	58
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	134	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	43	69	後縦靱帯骨化症	10
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	80
17	多系統萎縮症	27	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	96	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	21
21	ミトコンドリア病	31	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	32	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	131
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	8
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	37
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	72
34	神経線維腫症	76	89	リンパ脈管筋腫症	9
35	天疱瘡	3	90	網膜色素変性症	7
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	106
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	16
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	82
41	巨細胞性動脈炎	19	96	クローン病	64
42	結節性多発動脈炎	21	97	潰瘍性大腸炎	172
43	顕微鏡的多発血管炎	36	98	好酸球性消化管疾患	12
44	多発血管炎性肉芽腫症	34	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	31	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	9	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	7	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	50	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	396	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	87	105	チャージ症候群	10
51	全身性強皮症	40	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	64	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	288	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	27	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	40	161 家族性良性慢性天疱瘡	2
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	72
113 筋ジストロフィー	284	163 特発性後天性全身性無汗症	9
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	20	164 眼皮皮膚白皮症	2
115 遺伝性周期性四肢麻痺	2	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	4
117 脊髄空洞症	21	167 マルフアン症候群	32
118 脊髄髄膜瘤	2	168 エーラス・ダンロス症候群	6
119 アイザックス症候群	3	169 メンケス病	4
120 遺伝性ジストニア	1	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	0
122 脳表ヘモジデリン沈着症	1	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	10	177 有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	1	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	1
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスムンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192 コケイン症候群	1
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 プラダー・ウィリ症候群	6
144 レノックス・ガストー症候群	3	194 ソトス症候群	0
145 ウエスト症候群	2	195 ヌーナン症候群	3
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	1
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	1
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	1	206 脆弱X症候群	2
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	41	208 修正大血管転位症	5
159 色素性乾皮症	64	209 完全大血管転位症	2
160 先天性魚鱗癬	1	210 単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	56	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	6	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	19	266	家族性地中海熱	10
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	20	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	5
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髓炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	20
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	6
227	オスラー病	21	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	3
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	16	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	6	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	6	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	9	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	7
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	7	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	2	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	6	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	7
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肺炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	20
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	11
254	ポルフィリン症	8	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	4	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	6	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	23

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	12	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	4	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	3	330	先天性気管狭窄症	5
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	17
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	5
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク妊娠管理加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク分娩管理加算
歯科診療特別対応連携加算	呼吸ケアチーム加算
特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1)	後発医薬品使用体制加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算2
診療録管理体制加算1	データ提出加算
医師事務作業補助体制加算1(15:1)	入退院支援加算1
急性期看護補助体制加算(50:1)	精神疾患診療体制加算
看護職員夜間配置加算(看護職員夜間12対1配置加算1)	精神科急性期医師配置加算
看護補助加算	地域医療体制確保加算
療養環境加算	救命救急入院料1
重症者等療養環境特別加算	特定集中治療室管理料2
無菌治療室管理加算1(5床)	ハイケアユニット入院医療管理料1
無菌治療室管理加算2(23床)	総合周産期特定集中治療室管理料
緩和ケア診療加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科応急入院施設管理加算	小児入院医療管理料2
精神病棟入院時医学管理加算	排尿自立支援加算
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	医療機器安全管理料2
外来栄養食事指導料の注2	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	医療機器安全管理料(歯科)
糖尿病合併症管理料	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
がん性疼痛緩和指導管理料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
がん患者指導管理料イ	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん患者指導管理料ロ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
がん患者指導管理料ハ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
がん患者指導管理料ニ	遺伝学的検査
外来緩和ケア管理料	骨髄微小残存病変量測定
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	BRCA1/2遺伝子検査
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	がんゲノムプロファイリング検査
糖尿病透析予防指導管理料	先天性代謝異常症検査
小児運動器疾患指導管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
婦人科特定疾患治療管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
腎代替療法指導管理料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
院内トリアージ実施料	検体検査管理加算(Ⅳ)
外来放射線照射診療料	国際標準検査管理加算
ニコチン依存症管理料	遺伝カウンセリング加算
がん治療連携計画策定料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
外来排尿自立指導料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
ハイリスク妊産婦連携指導料1	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ハイリスク妊産婦連携指導料2	胎児心エコー法
肝炎インターフェロン治療計画料	ヘッドアップティルト試験
薬剤管理指導料	長期継続頭蓋内脳波検査
医療機器安全管理料1	単線維筋電図

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
神経学的検査	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
全視野精密網膜電図	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
ロービジョン検査判断料	がん患者リハビリテーション料
コンタクトレンズ検査料1	歯科口腔リハビリテーション料2
小児食物アレルギー負荷検査	精神科作業療法
内服・点滴誘発試験	精神科ショート・ケア「小規模なもの」
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	医療保護入院等診療料
精密触覚機能検査	エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
画像診断管理加算3	エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
ポジトロン断層撮影	人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
CT撮影及びMRI撮影	磁気による膀胱等刺激法
冠動脈CT撮影加算	手術用顕微鏡加算
血流予備量比コンピューター断層撮影	口腔粘膜処置
心臓MRI撮影加算	CAD/CAM冠
乳房MRI撮影加算	歯科技工加算1及び2
頭部MRI撮影加算	センチネルリンパ節加算
全身MRI撮影加算	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
外来化学療法加算1	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
連携充実加算	後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
無菌製剤処理料	椎間板内酵素注入療法
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	腫瘍脊椎骨全摘術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	内視鏡下筋層切開術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	胸腔鏡下弁形成術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胸腔鏡下弁置換術
角膜移植術(内皮移植加算)	経カテーテル大動脈弁置換術
羊膜移植術	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	経皮的中隔心筋焼灼術
網膜再建術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
人工中耳植込術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
顎関節人工関節全置換術(歯科)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	補助人工心臓
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
体外衝撃波胆石破碎術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下肝切除術	胎児胸腔・羊水腔シャント術
生体部分肝移植術	胎児輸血術
同種死体肝移植術	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
体外衝撃波膵石破碎術	輸血管理料Ⅰ
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	貯血式自己血輸血管理体制加算
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	コーディネート体制充実加算
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	自己生体組織接着剤作成術
同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	歯周組織再生誘導手術
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	歯根端切除手術の注3
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	口腔粘膜血管腫凝固術
同種死体腎移植術	レーザー機器加算
生体腎移植術	麻酔管理料(Ⅰ)
膀胱水圧拡張術	麻酔管理料(Ⅱ)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	外来放射線治療加算
人工尿道括約筋植込・置換術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	1回線量増加加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	画像誘導放射線治療(IGRT)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・骨髄微小残存病変量測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週5回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 32 例 / 剖検率 15.0 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
神経皮膚症候群に関する診療科横断的な診療体制の確立	錦織 千佳子	皮膚科学	24,960,000	補委	国立保健医療科学院
化学物質の動物個体レベルの免疫毒性データ集積とそれに基づくMulti-ImmunoTox assay(MITA)	大森 崇	臨床研究推進センター	1,200,000	補委	医薬品食品衛生研究所
指定難病と小児慢性特定疾病に関連した先天性骨系統疾患の適切な診断の実施と医療水準およびQOLの向上をめざした研究	大森 崇	臨床研究推進センター	650,000	補委	国立保健医療科学院
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学	400,000	補委	国立保健医療科学院
特発性好酸球増加症候群の診療ガイドライン作成に向けた疫学研究	片山 義雄	血液内科	250,000	補委	国立保健医療科学院
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	児玉 裕三	消化器内科学	600,000	補委	国立保健医療科学院
大規模データを用いた、地域の医療従事者確保対策に関する研究	小林 大介	医療システム学	1,550,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	松本 理器	脳神経内科学	300,000	補委	厚生労働省
てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究	松本 理器	脳神経内科学	300,000	補委	厚生労働省
ブラダー・ウィリ症候群における診療ガイドラインの作成	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	300,000	補委	国立保健医療科学院
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	200,000	補委	国立保健医療科学院
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	永瀬 裕朗	小児科学	300,000	補委	国立保健医療科学院
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎臓内科学	200,000	補委	国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立	野津 寛大	小児科学	500,000	補委	国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立	森貞 直哉	小児科学	500,000	補委	国立保健医療科学院
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野村 正	形成外科	300,000	補委	国立保健医療科学院
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	前田 貢作	小児外科学	450,000	補委	国立保健医療科学院
我が国の関節リウマチ診療の標準化に関する臨床疫学研究	森信 暁雄	免疫内科学	230,000	補委	厚生労働省
新規修飾タンパク質・アルファ糖の病態生理機能に着目した福山型筋ジストロフィーの発症機序の解明と治療法の開発	金川 基	分子脳科学	11,700,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新たな根治的粒子線治療を実現する吸収性スプレーの適応拡大と実用化研究	佐々木 良平	放射線腫瘍科	27,001,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児難治性頻回再発型・ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験	飯島 一誠	小児科学	33,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Alport症候群に対する新規治療法の開発	野津 寛大	小児科学	53,690,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん患者における患者報告アウトカム尺度開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	15,340,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗悪性腫瘍薬の臨床評価ガイドラインに関する研究	南 博信	腫瘍・血液内科学	4,680,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
不育症、産科異常に関わるネオ・セルフ抗体の研究開発	山田 秀人	産科婦人科学	15,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ゲノム不安定性疾患群を中心とした希少難治性疾患の次世代マルチオミクス診断拠点構築	錦織 千佳子	皮膚科学	910,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
人工核酸・短鎖ペプチドを用いたゲノム不安定性疾患の新規治療薬開発	錦織 千佳子	皮膚科学	910,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease (IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	飯島 一誠	小児科学	5,200,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
肝炎ウイルスの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための基盤的研究とその応用のための基盤の開発	勝二 郁夫	感染制御学	3,900,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
潰瘍性大腸炎の特異的自己抗原の同定による新規体外診断薬の開発	児玉 裕三	消化器内科学	6,500,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立	福本 巧	肝胆膵外科学	200,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	勝二 郁夫	感染制御学	3,640,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
薬事承認申請をめざした福山型筋ジストロフィーアンチセンス核酸治療薬の非臨床試験と自然歴・バイオマーカー探索・治験プロトコール作成	小林 千浩	分子脳科学	28,000,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
レポーターHBVを駆使したHBV複製解析および創薬研究	勝二 郁夫	感染制御学	5,100,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
次世代眼科医療を目指す、ICT/人工知能を活用した画像等データベースの基盤構築	中村 誠	眼科学	195,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
診療連携・国際連携をも視野にいった、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コ	西 慎一	腎臓内科学	195,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスの感染環を制御する宿主因子の探索と解析	勝二 郁夫	感染制御学	6,000,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ミスフォールド蛋白質・HLAクラスII分子複合体を標的にした自己免疫疾患の新たな診断法・治療法の開	山田 秀人	産科婦人科学	1,300,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
トキソプラズマ症の総合的対策に向けた開発研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,300,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,040,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
血液バイオマーカーを用いた効率的な膵がん検診の実用化	吉田 優	病院病態解析学	1,040,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍センター	4,550,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Borderline resectable膵癌に対する集学的治療法を用いた標準治療確立に関する研究	福本 巧	肝胆膵外科学	260,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する	清田 尚臣	腫瘍センター	1,040,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
HER2陽性再発転移の唾液癌に対する個別化治療の開発	清田 尚臣	腫瘍センター	390,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ゲノム・転写物・代謝物を融合した統合オミックス解析による希少難治性疾患の病態解明	児玉 裕三	消化器内科学	1,300,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
IgG4関連疾患の新規バイオマーカーと治療ターゲット開発に関する研究	児玉 裕三	消化器内科学	2,080,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
脳クレアチン欠乏症の創薬・治療エビデンスの創出	吉田 優	病院病態解析学	7,150,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
福山型筋ジストロフィーに対する低分子化合物スクリーニングを用いた分子標的治療法開発	青井 三千代	再生医療臨床応用実用化人材育成センター	3,447,750	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
持続血糖モニタリング (FGM/CGM) の血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索	廣田 勇士	糖尿病・内分泌内科	140,062	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査に基づく予防医学に向けたエビデンスの創出研究	栗野 宏之	親と子の心療部	130,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
急性大動脈解離発症前造影CT画像の解析	岡田 健次	心臓血管外科学	390,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリ研究	江本 憲昭	循環器内科学	910,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
静脈奇形に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性及び安全性の検	野村 正	形成外科	136,500	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	260,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
重症肺動脈圧症候群の予後と生活の質を改善するための安心安全のナノ医療製剤(希少疾病用医薬品)の実用化臨床試験	平田 健一	循環器内科学	1,950,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究	藤岡 一路	総合周産期母子医療センター	910,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
アレルギー性皮膚疾患の病態における発汗異常の解明と治療法の開発	福永 淳	皮膚科	2,515,500	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
超音波テンソル画像のテンソルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	田中 秀和	循環器内科学	500,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
A3243Gミトコンドリア耐糖能異常に対するタウリン療法の実用化	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学	1,625,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
真に個別患者の診療に役立ち領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの	飯島 一誠	小児科学	3,900,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
新生児マスマスク・エンブレ対象児の候補疾患を学術的観点から選定・評価するためのエビデンスに関する調査研究	篠原 正和	疫学	299,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
女性の冠動脈疾患診断およびリスク層別化における、冠動脈CTの多面的解剖学的指標および新規機能的指標の意義と費用効果分析	河野 淳	先進医療用画像診断学	390,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
持続可能なビッグデータ運用体制の構築と眼科AIシステムの社会実装	中村 誠	眼科学	71,500	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
多様な多施設共同非介入臨床研究における中央IRBの基盤整備とその効率の運用に関する研	久米 学	臨床研究推進センター	650,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脊髄性筋萎縮症の成人期予後把握を目的とした多施設共同コホート研究	関口 兼司	脳神経内科学	520,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	金川 基	分子脳科学	24,700,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸管神経系の形成と維持における組織間相互作用	榎本 秀樹	神経分化・再生	1,300,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
包括的メタボロミクスによるバイオマーカー探索、ならびに、医療質量分析システム開発	吉田 優	病因病態解析学	31,200,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
心筋メカノバイオロジー機構の解明による心不全治療法の開発/クライオ電子線トモグラフィ法による心筋メカノバイオロジー機構の構造基盤の解明	仁田 亮	生体構造解剖学	8,000,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ストレス関連疾患を担う機能性脂質の探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	古屋敷 智之	薬理学	87,143,368	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
疾患特異的iPS細胞を用いた下垂体疾患モデルの創出を目指した研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	45,300,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
老化機構・制御研究拠点/加齢に伴う細胞形態・運動制御の異常の分子機構	南 康博	細胞生理学	16,120,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
老化機構・制御研究拠点/神経細胞の老化機構	水谷 清人	病態シグナル学	39,000,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
個体・臓器老化研究拠点/脾臓老化の分子機構の解明	清野 進	分子代謝医学	19,500,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
老化研究推進・支援拠点/メタボローム解析支援・技術開発(フラックス解析)	清野 進	分子代謝医学	5,720,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
老化研究推進・支援拠点/老化研究推進支援拠点の形成と運営	高井 義美	病態シグナル学	16,432,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
神経芽腫に対する新規治療剤の探索	榎本 秀樹	神経分化・再生	10,010,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
色素性乾皮症治療薬の開発	錦織 千佳子	皮膚科学	7,967,344	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
神経一生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明/神経一生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明	南 康博	細胞生理学	13,000,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ヒト腸内細菌Bacteroides2菌種の抗炎症作用機序の解明と慢性炎症性疾患治療への応用	山下 智也	循環器内科	20,941,050	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
p53活性化新規抗がん薬の探索	前濱 朝彦	分子細胞生物学	2,499,860	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
糖鎖利用による革新的創薬技術開発 事業/ラミニン結合性機能糖鎖を応用 した筋ジストロフィー治療薬の開発	小林 千浩	分子脳科学	975,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
リボソームタンパク質を標的とした 新規p53活性化薬剤の探索	前濱 朝彦	分子細胞生物学	4,969,250	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ホログラム光刺激による神経回路 再編の人為的創出	和氣 弘明	システム生理学	25,350,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
接着の偏在によるモザイク形成メ カニズム	富樫 英	分子細胞生物学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
新規マグネシウム合金を応用し た生体吸収性体内用結さつクリッ プの開発・事業化	福本 巧	肝胆膵外科学	3,292,496	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
頭頸部放射線治療における照射 精度の誤差ゼロを目指す新規頭 頸部	佐々木 良平	放射線腫瘍科	300,000	補 委	兵庫県
自家末梢血CD34陽性細胞移植 による骨・血管再生療法に関する 医師主導治験	黒田 良祐	整形外科	44,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
癌抑制遺伝子を標的とする癌治 療法の開発	鈴木 聡	分子細胞生物学	20,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ネクチン関連分子と増殖因子受 容体/インテグリンの相互作用を 標的としたがん治療法	高井 義美	病態シグナル学	21,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
食細胞-がん細胞相互作用を 制御する新たながん免疫療法の 開発	的崎 尚	シグナル統合学	18,318,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
マージナルドナー腎移植の安全 性に関する新規エビデンス創出 研究	西 慎一	腎臓内科学	8,281,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
パーキンソン病に対する真の意 味のオーダーメイド治療を目指し た研究	小林 千浩	分子脳科学	12,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
医療機器開発における“日本型 エコシステム”推進を目指した拠 点整備事業	永井 洋士	臨床研究推進セン ター	11,759,990	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
人生の最終段階における医療体 制整備事業一式	木澤 義之	緩和支援診療科	47,520,000	補 委	厚生労働省
7大学連携個別化がん医療実践 者養成プラン	南 博信	腫瘍・血液内科学	15,225,000	補 委	文部科学省
細胞の形態・極性制御を司る微 小管ネットワーク形成の構造基盤	仁田 亮	生体構造解剖学	8,580,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
AD/HDのiPS細胞を用いた中 枢神経モデルの解析	曾良 一郎	精神医学	6,500,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
骨軟部肉腫、小児悪性腫瘍に対 する新規・体内空間可変粒子線 治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	5,720,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
循環器疾患における腸内細菌叢 の役割の解明と新規治療標的の 探索	山下 智也	循環器内科	4,680,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
指定難病「IgG4関連疾患」の自 己抗原同定による病態解明と新 しい診療体系の確立	児玉 裕三	消化器内科学	9,230,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪細胞のインスリンシグナル障 害による遠隔病理作用発現機構 の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌内科	6,500,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤にお ける共刺激分子遺伝子導入およ び放射線治療の併用効果	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外 科学	6,240,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
行動経済学を取り入れたアドバ ンスケアプランニングの効果に関 する検証試験	木澤 義之	緩和支援診療科	2,860,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
オリゴデンドロサイト前駆細胞局 所活動による軸索制御	和氣 弘明	システム生理学分野	4,680,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
感覚組織形成に働く接着力と表 面張力を制御する細胞間シグナ ルの解明	富樫 英	分子細胞生物学分野	3,120,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
血球細胞による意志力の低下と その機構の解明	北岡 志保	薬理学分野	3,900,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
免疫異常の記憶から捉える精神 疾患の階層的理解	和氣 弘明	システム生理学分野	3,770,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
緩和ケアを受ける末期心不全患者におけるモルヒネ体内動態と臨床効果の評価	飯田 真之	薬剤部薬剤管理指導室	420,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新生児ビタミンK欠乏症性出血症の新規診断法の検討	渡邊 優子	検査部	540,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
関節リウマチモデルマウスにおける新規エクソソームバイオマーカーの検証	生戸 健一	医療技術部臨床検査部門	540,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
梅毒患者を対象とした梅毒検査方法間の判定比較について	佐藤 伊都子	検査部	540,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
質量分析法を用いたMycoplasma hominisの新たな迅速同定方法の確立	石田 奈美	検査部	500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトヘルペスウイルス6の宿主受容体認識を司るウイルス糖蛋白質複合体の構造解析	西村 光広	臨床ウイルス学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
分子標的治療薬による間質性肺疾患の新規予防戦略の構築	山本 和宏	薬剤部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
妊婦における適正使用を目指した新規抗てんかん薬の数数学的モデル解析	矢野 育子	薬剤部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
転写メディエーター複合体の転写制御機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
交感神経に随伴するシュワン前駆細胞の他種細胞分化の検証とその分子基盤	伊藤 圭祐	神経分化・再生分野	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ホスホイノシタイド代謝異常を起点とするマリネスコシェーグレン症候群発症機構の解明	伊集院 壮	生化学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞間シグナルを介したがん細胞の新たな免疫監視回避機構の解析	村田 陽二	シグナル統合学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膝島の三次元構造形成・維持機構におけるEpac2/Rap1シグナルの役割の解明	高橋 晴美	細胞生理学分野分子代謝医学部門	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪性肝炎に対するBacteroides菌種の有効性の検討	矢野 嘉彦	感染病理学分野	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
大腸がんにおけるヒト内在性レトロウイルスの発現解析と機能解明	青井 三千代	再生医療臨床応用実用化人材育成センター	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
鍼治療に於ける手技(鍼刺激方法)の意義:治療効果との関連の科学的解明	大田 美香	医療情報学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎への進展に関わる腸管粘膜表層細菌の解析	酒井 新	消化器内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線照射後の腫瘍由来エクソソームに発現するPDL1を指標にした新規免疫治療戦略	原田 文	放射線腫瘍学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
過酸化チタンナノ粒子を用いたTheranostic粒子線治療の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヨードマップを用いた膵癌の線維性間質定量による悪性度および治療抵抗性の予測法確立	祖父江 慶太郎	IVRセンター	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
血流・組織解析CTによる肝細胞癌分子標的療法の治療効果および肝不全予測法の確立	村上 卓道	放射線診断学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内環境の修飾による大腸癌予防法の開発	大井 充	消化器内科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵癌における腸内細菌叢を介した腫瘍免疫機構の解明	増田 充弘	消化器内科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
自己免疫性膵炎の病態形成における腸内細菌の役割	井上 潤	光学医療診療部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
多面的な作用をもつHDLと細胞とのインタラクションの解明	入野 康宏	立証検査医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん治療関連心機能障害の早期診断・予防法の構築	田中 秀和	循環器内科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
生体イメージングによる静脈血栓形成から器質化への時空間的制御機構の可視化	原 哲也	循環器内科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規生体イメージングモデルを用いたJCADによる血栓形成制御機構の解明	川合 宏哉	循環器内科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
JCAD/KIAA1462のCOPDにおける役割の解明と治療法の開発	山本 正嗣	呼吸器内科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
遺伝性腎疾患におけるスプライシング異常症発症機序の解明および新規治療法の開発	野津 寛大	小児科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
紫外線による多段階皮膚癌における網羅的遺伝子解析	国定 充	皮膚科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
関節リウマチ特異的ノンコーディングRNA相互作用に関する研究	河野 誠司	総合臨床教育センター	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
先天的インスリン抵抗症の原因遺伝子の探索と患者iPS細胞を用いた病態の解析	廣田 勇士	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ACTH産生下垂体腺腫の浸潤性、増殖性に関連するCRNDの機能の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
多房性脂肪細胞におけるオートファジーがエネルギー代謝を制御するメカニズムの解明	田守 義和	健康創造推進学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
グルタミン酸シグナルによるインスリン開口分泌制御機構の解明	艾尼 吾甫尔江	細胞生理学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
臓器特異的な免疫記憶誘導に着目した新たな癌免疫療法の試み	山下 公大	食道胃腸外科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脊髄虚血再灌流障害を予防、回避するための脳脊髄液中のバイオマーカーの同定	山中 勝弘	低侵襲外科学分野	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
癌細胞株と3次元in vitroモデルを応用した浸潤における候補遺伝子の解明	土井 健史	呼吸器外科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ICU-acquired weakness予防に最適な急性血糖管理の検討	江木 盛時	麻酔科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
敗血症性脳症の発症メカニズム解明とIL-18をターゲットとした新規治療戦略	小谷 穰治	救命救急センター	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
くも膜下出血に伴う脳血管攣縮の脳・髄液代謝変化のオミクスによる包括的解析	魚住 洋一	脳神経外科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
mTORC1を標的とした変形性関節症治療薬の開発	松下 雄彦	整形外科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法を用いた類上皮肉腫に対する新規治療方法の開発	藤本 卓也	泌尿器科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗酸化物質を用いた肩腱板変性断裂に対する予防的治療の開発	美船 泰	整形外科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
聴神経腫瘍のゲノム解析による腫瘍発生および増大メカニズムの解明	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
血管・リンパ管新生に着目した歯性感染症－顎骨骨髓炎移行メカニズム解明と治療法探索	明石 昌也	口腔外科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
心臓性急死における内皮関連分子のダイナミクストロンボモジュリンを中心として	近藤 武史	法医学分野	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
SACLA及びNMRを駆使した抗がん剤設計のためのRasタンパク質の動的構造解析	榎野 義輝	シグナル伝達医学研究展開センター	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脳内微小環境破壊を担うミクログリア活性化制御機構とその細胞生物学的意義の解明	谷口 将之	薬理学分野	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
イブプロフェン含嗽剤の作用時間の持続と使用時の刺激感の減少を目指した製剤化研究	五百蔵 武士	薬剤部治験管理室	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
唾液腺発生時における細胞間接着分子の解析	北山 美登里	口腔外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
大腸癌における接着因子NCAMと腫瘍関連マクロファージとの相互作用解析機構の解明	高瀬 信尚	食道胃腸外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
HCV感染によるシャペロン介在性オートファジーを介した蛋白質分解と分子病態	松井 千絵子	感染制御学分野	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞接着分子ネクチンによるがん細胞の増殖と運動の停止と再開のスイッチ機構	慶田城 迅	シグナル統合学分野 病態シグナル学部門	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Drug repositioningによるアルファシヌクレイン凝集抑制薬の探索	山本 泰憲	膜動態学分野	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
子宮頸癌の小線源治療における人工知能を利用した自動輪郭入力の研究	西川 遼	放射線腫瘍科	1,170,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
超低侵襲を可能にする新規の体液診断マーカーを併用した放射線治療の開発	川口 弘毅	放射線腫瘍科	1,170,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
患者個別がん幹細胞を得る免疫ヒト化・異種移植マウスモデルを用いた放射線応答の研究	モハメド モハメド	放射線腫瘍科	1,950,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
マクロファージを対象とした新規薬剤輸送システムの確立と新規治療戦略の開発	妹尾 悟史	放射線腫瘍科	1,560,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
急性腸管虚血症に対するインドシアニングリーン動注による腸管血流評価の有効性の検討	佐々木 康二	放射線診断・IVR科	130,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
ナノ粒子デリバリーによる放射線増感機能を付加する治療用視認性マーカーの新規開発	王 天縁	放射線腫瘍科	1,560,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
還元型CoQ10を用いた中枢神経細胞損傷の防護を目指した新規放射線療法の開発	清水 康之	放射線腫瘍科	2,210,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
重症虚血肢に対する低酸素環境の改善を目的とした新規炭酸ガス療法の開発	元津 倫幸	放射線診断・IVR科	2,340,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
マウスモデルを用いた早産児敗血症に対する臍帯由来間葉系幹細胞治療の開発	西田 浩輔	総合周産期母子医療センター	1,820,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
Pierson症候群における重症化機序の解明と新規治療開発	榊原 菜々	小児科	1,560,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
スプライシング修正による日本人ガラクトシアリドーシスの新規治療法の開発	坊 亮輔	小児科	1,040,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
解糖阻害薬の早産児敗血症保護効果の解明	生田 寿彦	小児科	2,470,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
神経芽腫がん幹細胞マーカーALDH1A2によるがん微小環境の制御の解明	植村 優	小児科	1,690,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト胎盤の網羅的DNAメチル化解析による胎児発育不全の責任遺伝子の同定	芦名 満理子	小児科	1,820,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
神経芽腫のがん微小環境制御におけるEvi5の役割に関する研究	高藤 哲	小児科	1,950,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いたヒトBarrett食道の病態モデルの作成	小寺澤 康文	食道胃腸外科	1,560,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
心臓への粒子線照射後の組織学的、電気生理学的変化の解析と不整脈治療への展開	高見 充	循環器内科	2,990,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
Duchenne型筋ジストロフィーの心機能障害におけるアクチニン3多型の病態解明	永井 正志	小児科学	1,040,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
慢性血栓性肺高血圧症の発症・進展の分子メカニズムの解明	谷口 悠	循環器内科	2,080,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
X染色体連鎖型アルポート症候群女性患者の重症化メカニズム解明に関する研究	山村 智彦	小児科	2,080,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
アトピー性皮膚炎の治療過程における好塩基球の動態の解明	鷲尾 健	皮膚科学	1,170,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
免疫担当細胞の細胞代謝を利用した自己免疫疾患の新規治療	岡野 隆一	検査部	650,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
Generation of HIV-1 resistant T cells from induced pluripotent stem cell using CRISPR/Cas9 system	オフィンニ ユディル	病理学分野	2,470,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
膵β細胞におけるCK2βの役割	高井 智子	シグナル統合学分野	1,950,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
早産児腹膜炎への外科侵襲に伴う免疫応答の解明と新たな周術期免疫賦活療法の開発	大片 祐一	小児外科	1,950,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
NKT細胞活性化ベクターを用いた大網内への抗腫瘍免疫誘導による腹膜播種の新規治療	有本 聡	食道胃腸外科	1,820,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
レジデントメモリー誘導機構を用いた直腸癌新規術前療法の開発	福岡 英志	食道胃腸外科	1,040,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会
CTと術中動画を用いた膵上縁リンパ節郭清シミュレーションモデルの開発	山崎 悠太	食道胃腸外科	1,950,000	(補 委)	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新たな亜型分類に基づく肺高悪性度神経内分泌癌の新規予後マーカー探索と個別化治療確立	神保 直江	病理診断科	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
虚血に対する非脱分極性筋弛緩薬クロニウムの筋細胞保護効果に関する研究	田口 真也	麻酔科	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
意識を可視化する～周術期安静時pharmacological fMRIによる研究	若林 潤二	麻酔科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
高齢者敗血症における長期免疫評価とリンパ球活性化因子を用いた新規治療戦略	齋藤 雅史	災害・救急医学分野 先進救命救急医学部 門	2,210,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症とミトコンドリア機能障害のクロストークに着目した急性脳症の包括的病態解明	富岡 和美	小児科学分野こども 総合療育学部門	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ケトン食による腫瘍内代謝リモデリングを考慮した膠芽腫の新規統合療法の開発	田中 宏知	脳神経外科学	2,340,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
メタボローム解析を用いた無症候性頸動脈狭窄症の症候化予測因子の網羅的探索	山下 俊輔	脳神経外科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
成長因子GDF6の椎間板における役割の解明と椎間板変性に対する治療アプローチ	宮崎 真吾	整形外科	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
メニエール病における抗利尿ホルモンによるアクアポリン2の細胞内局在に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
創傷治癒能力とミトコンドリア機能に着目した新規創傷治療法の開発	齊藤 泉	口腔外科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
M1マクロファージに着目した口腔扁平上皮癌の新規予防法・病理診断法の開発	重岡 学	病理学分野	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性骨髄炎における新規治療法の開発	岩田 英治	口腔外科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
遺伝学的評価に基づいた顎顔面領域の形態評価システム	岡本 奈那	口腔外科学	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
デュシェンヌ型筋ジストロフィーの心電図異常が示す病態的意義の解明	山本 哲志	検査部	2,860,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
神経活動依存性髄鞘形成の分子基盤の解明:脳白質は可塑的であるか?	杉尾 翔太	システム生理学分野	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪幹細胞を用いたドラッグデリバリーシステムによる新規がん治療法の開発	川上 洋平	整形外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
メタルナノ粒子を吸着した薬剤溶出性ビーズによる新規放射線増感療法の基礎的検討	窪田 光	放射線腫瘍科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
頸動脈狭窄症における脆弱ブレーク形成への小胞体ストレス応答関与機構の解明	今堀 太一郎	脳神経外科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
肥満・加齢における骨格筋の質的量的制御メカニズムの解析	野村 和弘	糖尿病・内分泌内科	15,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト膵β細胞における2型糖尿病感受性遺伝子の機能解析	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌内科	15,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌叢由来LPSと循環器疾患における慢性炎症との関連解明研究	吉田 尚史	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
不動化による筋萎縮の制御機構の解析	平田 悠	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死における術中感染骨検知液の新規開発	有本 智美	歯科口腔外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
アジア文化に即したアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の開発と有効性の検証	木澤 義之	緩和支援治療科	3,120,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
通常型腺癌から肝様腺癌へのクローン進化過程の検証と病理診断への応用	藤倉 航平	病理診断科	15,210,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
KLF15を介した筋萎縮の分子機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌内科	3,250,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
地域創成まちづくり事業を活用した医療の枠組みを超えた地域医療教育の検証	岡山 雅信	医学教育学分野地域 医療教育学部門	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
アドバンスケアプランニングのきっかけとして予後予測が役立つか?ランダム化比較試験	木澤 義之	緩和支援治療科	2,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
福山型筋ジストロフィーと類縁疾患の分子病態解明と治療法開発	小林 千浩	分子脳科学分野	3,380,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
低酸素免疫応答の解明と免疫システムを用いた集学的治療への展開	掛地 吉弘	食道胃腸外科	4,160,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
癌抑制遺伝子の個体における機能と制御	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	10,140,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
腸管神経前駆細胞における網状細胞移動の分子機構解明	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	3,380,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
アルポート症候群の重症化に関与する遺伝子の同定と重症化機序の解明	飯島 一誠	小児科	4,810,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
99Mo/99mTc国産化を推進する空間構造に優れた新規アルミナ吸着剤の開発	福光 延吉	放射線腫瘍科	5,460,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
人工癌幹細胞技術を用いた肺腺癌浸潤部位形成のメカニズムとその制御法の研究	眞庭 謙昌	呼吸器外科	5,460,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ミクログリアによる高次脳機能維持機構とその破綻	和氣 弘明	システム生理学分野	5,720,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
SIPシグナルを介したエキソソーム放出の分子機構の解析	中村 俊一	生化学分野	5,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
次世代技術を用いた希少胆膵疾患の網羅的DNA・プロテオーム解析	全 陽	病理診断学	4,550,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
意味記憶ネットワークの神経基盤:皮質脳波解読と刺激・病変研究による包括的解明	松本 理器	脳神経内科	4,160,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
骨髄造血大環境としての骨組織の解析	片山 義雄	血液内科	5,720,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病のインクレチン応答性インスリン分泌不全の分子機構解明とその治療戦略の確立	清野 進	細胞生理学分野分子代謝医学部門	5,460,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
光による皮膚概日リズム形成の意義を探索	寺師 浩人	形成外科	4,940,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
がん細胞の生存・維持の分子機構の解明	的崎 尚	シグナル統合学分野	12,870,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
細胞極性と接着の制御による3次元細胞選別機構の解明	富樫 英	分子細胞生物学分野	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
発振現象を基軸としたパーキンソン病の病態解明とオプトDBS開発	橘 吉寿	システム生理学分野	2,990,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ストレスによる認知情動変容を担う多段階プロセスと精神疾患への関与の構成的理解	古屋敷 智之	薬理学分野	33,670,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
歯科健診・指導の継続による歯周病と生活習慣病の改善効果	時岡 早苗	歯科口腔外科	1,560,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
摂食時間制限による腸内環境変化と消化器系臓器の機能適応	星 奈美子	消化器内科	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
がん性疼痛に対する経皮的電気刺激治療の身体・精神機能および医療費抑制効果の検証	井上 順一朗	医療技術室	1,040,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
内臓の非対称とその配置の非対称	本多 久夫	細胞生理学分野	910,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
脳内炎症を惹起する神経細胞由来分子の同定	北岡 志保	薬理学分野	1,690,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
SIPシグナリングによる癌炎症環境における悪玉エクソソーム成熟機構の解明	梶本 武利	生化学分野	1,560,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
食道扁平上皮癌における癌細胞と腫瘍関連線維芽細胞・マクロファージ相互作用の解析	横崎 宏	病理学分野	1,170,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
肝炎ウイルスの増殖制御に関わる細胞内アネキシン分子の機能解析	阿部 隆之	感染制御学分野	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
水痘帯状疱疹ウイルス弱毒生ワクチン弱毒化分子機構の解明	定岡 知彦	臨床ウイルス学分野	1,560,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬治療を最適化するためのHLAを含むバイオカー探索	南 博信	腫瘍・血液内科	1,950,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腸内細菌へ介入する循環器疾患予防法の開発のための基盤研究	平田 健一	循環器内科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
虚血再灌流心筋障害の原因となる生理活性脂質メディエーターの解明と治療的介入	篠原 正和	疫学分野	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
肺腺がんの微小乳頭状構造のオルガノイド培養システムの確立	永野 達也	呼吸器内科	650,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
気管支サーモプラスティの効果予測因子の探索的研究	小林 和幸	医療の質・安全管理部	1,820,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
グルカゴン関連ペプチドの測定法の確立とそれらの病態生理学的意義の解明	南 幸太郎	細胞生理学分野分子代謝医学部門	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
骨格筋アドレナリン抵抗性が代謝制御に及ぼす影響とその発症メカニズムの解析	野村 和弘	糖尿病・内分泌内科	780,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いた2型糖尿病感受性遺伝子による糖尿病発症機序の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌内科	1,170,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
エピジェネティクス機構による造血幹細胞の老化制御メカニズム	仁田 英里子	生体構造解剖学分野	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
デジタルPCR法による好酸球増多症候群の診断のマルチバイオマーカーの開発	定 明子	血液内科	260,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
新規放射線増感療法としての金属ナノ粒子動注の応用研究	岡田 卓也	放射線部	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
microRNA導入幹細胞による新規放射線増感法の開発	松尾 圭朗	放射線腫瘍学	1,495,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
消化器癌腹膜播腫における腹腔内制御性B細胞の解析と化学療法との臨床応用	山本 将士	食道胃腸外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
放射光位相差X線CT法と高周波超音波法による大動脈解離の発症前診断に関する研究	築部 卓郎	心臓血管外科	520,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
格子ボルツマン法を用いたMRI単独CFD解析法による脳動脈瘤増大因子の同定	木村 英仁	脳神経外科	780,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
グリオーマの髄腔播種促進因子の同定・機能解析と診断・治療への応用	篠山 隆司	脳神経外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
IDH変異陽性グリオーマに対するグルタミン代謝を標的とした治療法の開発	田中 一寛	脳神経外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
磁気共鳴画像支援により受動的誘導可能な機材開発の基礎的研究	藤田 敦史	脳神経外科	910,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
高磁場術中MRI安静時脳機能ネットワーク解析による脳神経機能温存手術の基礎的研究	甲村 英二	脳神経外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
骨折治癒に不利な条件下における、炭酸ガス経皮吸収の骨折治癒促進効果の検討	岩倉 崇	整形外科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
骨再生療法への炭酸ガスの応用	新倉 隆宏	整形外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
転移性骨腫瘍の骨リモデリングに対する炭酸ガス療法の効果について	原 仁美	リハビリテーション部	910,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
関節リウマチの病態にミトコンドリアが与える影響についての検討	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学分野	1,170,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
術後せん妄発生機序の解明ー脳脊髄液中トリプトファン代謝物質からの検討	岡田 雅子	手術部	1,560,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
神経栄養因子の発現調節による術後認知機能障害の予防と治療	小幡 典彦	麻酔科	1,040,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
尿路上皮癌の再発時に起きるゲノム異常の解析	日向 信之	腎泌尿器科	1,690,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
生殖不全における制御性B細胞、樹状細胞、NK細胞の役割の解明	出口 雅士	地域医療ネットワーク学分野	1,170,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
HLA class II複合体抗体による不育症、妊娠合併症の新診断・治療法の確立	山田 秀人	産科婦人科	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
唾液腺がんにおける免疫チェックポイント分子発現と遺伝子変異の探索	清田 尚臣	腫瘍センター	910,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
フマル酸ジメチルの抗酸化作用ならびに免疫調節作用を介した神経保護効果	栗本 拓治	眼科学分野	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病性足潰瘍を非侵襲的に予防する理学療法処方の構築	藤井 美樹	形成外科	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
メタボローム解析を用いたARONJに対する新規LED治療の開発	鈴木 泰明	歯科口腔外科	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
膜変形タンパク質のプロテオスタシスを基軸とする小胞体の恒常性維持機構の解明	山本 泰憲	膜動態学分野	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
PICT1を起点とした核小体ストレス経路の解明と癌制御	前濱 朝彦	分子細胞生物学分野	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
接着力の差を並び替えて変換して自律的に組織をつくるメカニズム	富樫 英	分子細胞生物学分野	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
ユビキチン化反応による小胞体の柔軟な形状変化	梶保 博昭	膜動態学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
アストロサイトによるRor2を介した脳内炎症制御機構が組織修復に果たす役割の解明	遠藤 光晴	細胞生理学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
パーキンソン病の病態におけるS1P受容体シグナルおよびエキソソーム放出の関与	岡田 太郎	生化学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
チック症の発現機序を紐解くー光イメージング法を用いたアプローチー	橘 吉寿	システム生理学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
亜鉛欠乏症への亜鉛要求性タンパク質恒常性維持シグナル伝達機構破綻の関与	枝松 裕紀	生理学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪性軟部腫瘍は正確に病理診断されているか？ 実践的診断アルゴリズムの確立	廣瀬 隆則	地域連携病理学分野	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
食道扁平上皮癌の発癌初期段階におけるマクロファージ・線維芽細胞の協調作用の解析	粕 雄一郎	病理学分野	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
ウイルスに対する免疫応答を規定する非感染状態の免疫システムに関する研究	亀山 武志	シグナル統合学分野 病態シグナル学部門	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
Ras阻害剤による乳がん骨転移抑制機構の解明	吉川 陽子	生理学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
膵がんにおける代謝バイオマーカーの確立	小林 隆	地域医療ネットワーク 学分野	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
赤血球膜結合IgG抗体の検出による大腸癌スクリーニング法の確立	川本 晋一郎	輸血・細胞治療部	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
鍼刺激で発見したAig11遺伝子の生物学的機能と鍼治療効果との関連の研究	高岡 裕	医療情報部	2,080,000	独立行政法人 日本学術振興会
がん患者の突出痛治療における予防的オピオイドレスキュー効果の検討	西島 薫	緩和支援治療科	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
AIによる肺癌超低線量CT検診及び肺結節鑑別診断用コンピューター支援装置開発	竹中 大祐	放射線診断学	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
エクソソームの細胞特異性を利用した新規放射線増感剤の開発	犬伏 祥子	乳腺内分泌外科	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌のRa-223療法におけるNaF PET/MRの有用性検討	野上 宗伸	放射線部	780,000	独立行政法人 日本学術振興会
無機ナノ粒子を用いた放射線治療増感効果の最適化の検討	西村 英輝	放射線腫瘍科	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
タイチン分解酵素を阻害するDuchenne型筋ジストロフィーの新しい治療標的	栗野 宏之	小児科	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
持続性心房細動における心房線維化ならびに局所的炎症部位への非薬物的治療の確立	木内 邦彦	循環器内科	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
網羅的手法を用いたHDL機能を規定する因子の基礎臨床融合研究	石田 達郎	医学教育学分野医学 教育学部門	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
新規HDL機能評価指標の実用性の検証と規定因子の同定	杜 隆嗣	立証検査医学分野	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
常染色体優性間質性腎疾患(ADTKD)のゲノム診療体制の基盤構築	森貞 直哉	小児科学分野	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
TFL発現異常による免疫制御の破綻が引き起こすがん病態悪化機構の解明	皆川 健太郎	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
代謝をターゲットとした自己免疫疾患の新規治療法の開発	三枝 淳	検査部	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
関節リウマチにおけるエクソソームの病態への関与の解明	中町 祐司	地域医療活性化センター事務係	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脂肪細胞のインスリン-mTOR経路による代謝調節機構とNASHの病態解明	細岡 哲也	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
自己免疫性下垂体疾患の発症メカニズムの解明と臨床応用	井口 元三	糖尿病・内分泌内科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症低減化を目指した新たな生体適合素材の開発	小松 昇平	肝胆膵外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
肺大細胞神経内分泌癌の抗癌剤感受性における神経内分泌因子の役割	田中 雄悟	呼吸器外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
新生児期疼痛による行動異常に対する神経活動マッピングとネットワーク機能変化の解明	野村 有紀	麻酔科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
最大気流速に向かって進む画期的な気管挿管デバイスの開発と実用化に向けた研究	溝渕 知司	麻酔科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
網羅的炎症解析による難治性けいれん重積状態の病態解明と新しい診断・治療法の開発	永瀬 裕朗	小児科学分野こども急性疾患学部門	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
腫瘍関連マクロファージ免疫チェックポイント阻害による新規膠芽腫治療法の基礎研究	西原 賢在	脳神経外科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脳虚血再灌流障害におけるATMキナーゼ経路の役割解明と新たな脳梗塞治療への応用	細田 弘吉	脳神経外科学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
メタボローム解析を用いた原発性中枢性リンパ腫における新規バイオマーカーの探索	水川 克	脳神経外科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト脂肪由来再生幹細胞による難治性骨折治療に関する基礎研究	松本 知之	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
iPS細胞作製技術を用いた人工骨肉腫幹細胞の樹立と機能解明	河本 旭哉	整形外科	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
EPAを用いた変形性関節症治療への挑戦	林 申也	整形外科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
内耳有毛細胞ときこえを守る支持細胞の働き	勝沼 紗矢香	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌における骨髄由来抑制細胞とアデノシン代謝	井之口 豪	耳鼻咽喉科頭頸部外科	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
OCTを用いた内リンパ水腫軽減効果のin vivoイメージングに関する研究	柿木 章伸	地域医療ネットワーク学分野	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病網膜神経変性におけるneurovascular unitの役割の解明	楠原 仙太郎	眼科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
アクアポリノバチーとしての網膜・視神経変性の病態解明	中村 誠	眼科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
乳児血管腫におけるstem cellの関与 ～増殖・分化制御機構の解明～	櫻井 沙由理	形成外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
治療抵抗性の改善と副作用の軽減を目指した革新的ながん治療法の開発応用	長谷川 巧実	歯科口腔外科	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
心臓性突然死の病態における炎症分子ペントラキシン3の関与と法医学実務への応用	高橋 玄倫	法医学分野	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
麻薬と鎮静薬は命を縮めるのか？全国データベースと周辺構造モデルを用いた大規模研究	坂下 明大	緩和支援治療科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
SIPシグナルを介したパーキンソン病の病態解析	中村 俊一	生化学分野	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
非侵襲的言語マッピング法の開発：刺激介入から脳情報解読へのパラダイムシフト	松本 理器	脳神経内科	2,210,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
クライオ電子顕微鏡を用いた心筋リモデリングの分子基盤の解明	仁田 亮	生体構造解剖学分野	3,120,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
CD28分子集簇能による胃癌抗PD-1抗体療法におけるresponder群の同定	掛地 吉弘	食道胃腸外科	1,950,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
骨髄由来抑制細胞を利用した自己免疫疾患の新規治療	西村 啓佑	腎臓・免疫内科学	910,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
嗅神経細胞の再生医療	福田 有里子	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	910,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
口腔癌におけるチタンナノ粒子の有効性に関する研究	寛 康正	臨床研究推進センター	780,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
口腔腫瘍悪性化および増殖と環境因子との相関-TRPチャネルをめぐって-	榊原 晶子	歯科口腔外科	650,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
患者由来近位尿管細胞を用いたLowe症候群の病態解明および新規治療法の開発	南川 将吾	小児科学	780,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
SGLT2阻害による非生理的尿糖排泄下の糖代謝制御に関する新規数理モデルの構築	中村 友昭	総合内科	1,040,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
新生児慢性肺疾患に対する胎児付属物由来Muse細胞を用いた新治療の開発	山名 啓司	小児科学	1,170,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
自閉症スペクトラム障害の発症と新生児黄疸の関連性についての研究	前山 花織	小児科学	1,430,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
甲状腺の結節性病変に対する細胞診による分子生物学的診断法の開発	手島 直則	耳鼻咽喉・頭頸部外科	260,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
血漿メタボローム解析による口腔がん術後再発・転移診断法の確立	木本 明	歯科口腔外科	1,170,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
脂肪酸代謝を介した小胞体の形態形成機構	内田 安則	膜動態学分野	1,430,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
社会ストレスによる神経形態変化を導く神経グリア相互作用の超微細細胞生物学的解明	永井 裕崇	薬理学分野	2,080,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
肝臓癌のエクソーム解析と病理診断の基盤構築	藤倉 航平	病理診断科	1,690,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
CD47-SIRP α シグナルによる樹状細胞ならびにリンパ組織制御機構の解明	齊藤 泰之	シグナル統合学分野	2,080,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
リボソーム異常によるがんの発症・進展機構の解明	大谷 淳二	分子細胞生物学分野	2,080,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
Hippo経路破綻による舌がん発症マウスモデルの樹立	上田 史仁	分子細胞生物学分野	2,210,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
空間的分割グリッド法を用いた放射線治療による悪性神経膠腫に対する新規治療戦略	石原 武明	放射線診断・IVR科	1,690,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
活性型Rasタンパク質のGTPを標的とした赤外線レーザーによる抗腫瘍療法の開発	松本 耕祐	口腔外科学	1,040,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
がん免疫研究モデルとして免疫ヒト化MSI-H大腸がん異種移植マウスモデルの開発	船越 洋平	腫瘍・血液内科	1,300,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
終末期がん患者の呼吸困難による苦痛緩和薬物療法の開発に関する研究	山口 崇	先端緩和医療学	1,560,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
多発性硬化症におけるPD-1陽性T細胞を用いた進行性病態の解明	千原 典夫	脳神経内科	1,820,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
MIFから考える統合失調症の分子病態と抗精神病薬の新たな作用機序	岡崎 賢志	精神科神経科	1,170,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
腸内細菌へ介入するうつ病の予防法開発のための研究	蓬萊 政	精神科神経科	1,040,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
統合失調症患者のiPS細胞を利用した前頭前皮質の発生、シナプス形成の生物モデル化	江口 典臣	精神科神経科	1,040,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
FMISO-PETを用いた炭酸ガス療法による腫瘍の低酸素状態改善のイメージング	丸山 晃司	放射線診断学	1,040,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
インビゾ線量測定を可能にする標的体積内埋め込み型マイクロ線量計の開発	矢田 隆一	放射線腫瘍科	1,820,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
4D-CT画像加算処理技術を用いた造影剤80%減量CTAの臨床応用	堀之内 宏樹	放射線診断学	520,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マウス未熟脳障害モデルを用いた胎児付属物・臍帯血由来幹細胞による新規治療薬の開発	李 進剛	小児科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
胎便性腹膜炎モデルマウスに対する薬物的HO-1誘導/MSCs投与併用療法の開発	藤岡 一路	総合周産期母子医療センター	2,340,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
臨床データベースと患者検体を活用したサイトカインストーム型急性脳症の病態解明	西山 将広	親と子の心療部	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
ステロイド感受性ネフローゼ症候群の病態発症機序の解明	堀之内 智子	小児科学分野こども総合療育学部門	2,080,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
WT1遺伝子変異によるFrasier症候群の病態解明および新規治療法の開発	長野 智那	小児科学分野こども急性疾患学部門	2,080,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
高脂肪食が胃MALTリンパ腫の発生進展に与える影響とその機構の解明	渡邊 大輔	消化器内科	2,080,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
関節リウマチモデルを用いた組織特異的MDSCサブセットの探索と新規治療への応用	千藤 荘	腎臓・免疫内科学	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
異なる研究レベルの融合による、関節リウマチの個別化医療の開発	大西 輝	膠原病リウマチ内科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
脂肪細胞の脂肪滴形態とエネルギー代謝特性を繋ぐオートファジー機構の研究	西本 祐希	糖尿病・内分泌内科	1,950,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
経皮的肝灌流門注化学療法の臨床応用にむけた薬物血中動態に関する研究	水本 拓也	肝胆膵外科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
術後維持輸液の選択が患者予後に与える影響を検討する無作為化比較試験	古島 夏奈	集中治療部	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
慢性痛患者の安静時脳機能的結合へのケタミンの影響	本山 泰士	麻酔科	1,170,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病モデルマウスにおける術後認知機能障害と予防策	東南 杏香	麻酔科	910,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
慢性高血糖の糖尿病モデルにおける至適な術前血糖管理の開発	藤本 大地	麻酔科	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
大脳皮質第一次体性感覚野の生体イメージングによる疼痛発症・維持機構の病態解明	岡田 卓也	麻酔科	2,210,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
重症頭部外傷の脳代謝についてメタボロミクス分析を用いた病態解析と予後予測の検討	中井 友昭	脳神経外科	1,040,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
グリオーマにおけるRac1-GSPT1軸をターゲットとした新規治療薬の開発	石井 大嗣	脳神経外科	1,690,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
明細胞肉腫に対するLAT-1阻害剤を用いた新たな抗癌剤治療法の開発	森下 雅之	整形外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
Kinematical alignment TKAのバイオメカニクスの検討	高山 孝治	整形外科	780,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
細胞低接着性コラーゲンLASCollを用いた脊椎椎間板再生	由留部 崇	整形外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
分子マーカーを用いた軟部肉腫の新規リスク分類の創出	小松 正人	病理診断科	1,300,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
生殖不全とhuman herpesvirus 6 & 7との関係解明	長又 哲史	産科婦人科	1,560,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
脈絡膜血管形態及び脈絡膜血管新生におけるYAP/TAZの役割の解明	松宮 亘	眼科	1,170,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
中心性漿液性脈絡網膜症における漿液性網膜剥離の病態解明	三木 明子	眼科	1,430,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する機能的電気刺激療法の開発	坪井 康典	リハビリテーション部	1,690,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群疾患感受性遺伝子及び薬剤感受性遺伝子同定のための国際共同研究	飯島 一誠	小児科	5,330,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
看護管理者のキーコンピテンシー獲得に向けた教育プログラムの開発と有用性の検証	ウィリアムソン 彰子	看護部	650,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会
唾液腺癌発症に関わる遺伝子の解析と分子標的薬の探索	長谷川 巧実	歯科口腔外科	130,000	(補委) 独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規ラットモデルを用いた糖尿病遺伝素因と病態発症・進展機構の解明	波多野 直哉	シグナル統合学	287,087	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
高速三次元計測と局所場光摂動による自在な細胞機能編集技術の開発	和氣 弘明	システム生理学分野	1,430,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
患者・家族と創る日本版アドバンス・ケア・プランニング～人生最終段階の幸せを支える	木澤 義之	緩和支援治療科	650,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
SMN2遺伝子のイントロン・リテンションを応用した脊髄性筋萎縮症新規治療法の開発	篠原 正和	疫学分野	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学分野	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
輸入・新興感染症から医療従事者を守れ！臨床現場ガイドライン策定のための防護具研究	荒川 創一	腎泌尿器科	260,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
マルチスケール精神病態の構成的理解(総括班)	古屋敷 智之	薬理学分野	1,950,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
多様性肺結節データベースの構築と自己学習型画像診断支援システム開発の基礎研究	西尾 瑞穂	放射線診断・IVR科	2,730,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
D体アミノ酸に注目したうつ病の病態解明研究	朴 秀賢	精神科神経科	260,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
放射線脳壊死関連マクロファージに発現する免疫制御分子B7ファミリーの意義の解明	山下 公大	食道胃腸外科	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
アミノ酸イメージングと癌シグナル伝達因子による脳腫瘍患者の予後予測マーカーの解明	村上 卓道	放射線診断学分野	13,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ヨード密度CT画像を用いた肝線維化の評価法の開発	村上 卓道	放射線診断学分野	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ヨード密度CT画像を用いた肝線維化の評価法の開発	祖父江 慶太郎	IVRセンター	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
位相差X線CTと免疫染色法を用いたヒト動脈管組織の微細構造と機能解析	大嶋 義博	小児外科	39,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
位相差X線CTと免疫染色法を用いたヒト動脈管組織の微細構造と機能解析	松久 弘典	心臓血管外科学	39,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
MTCLタンパク質群による微小管集合構造制御機構の解明	仁田 亮	生体構造解剖学分野	520,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
子ども-環境相互作用に注目した社会的養護の基礎的・実践的研究	田中 究	精神医学分野	260,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
看護師と医師が協働するケア・キュー融合型症状マネジメントモデルの開発	木澤 義之	緩和支援治療科	390,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
AI支援型がん患者の意思決定構造解析を基盤とした情報提供システムの開発	木澤 義之	緩和支援治療科	260,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性顎骨壊死の病態と発症リスク因子の解明に関する多施設共同研究	長谷川 巧実	口腔外科学分野	65,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
慢性疾患をもつ子どもを含む家族の役割移行を支える多職種協働プログラムの開発	栗野 宏之	小児科	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト脳発振現象の直接記録	松本 理器	脳神経内科	3,900,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
スクラップ&ビルドによる脳機能の動的制御	内匠 透	生理学分野	650,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌頸部リンパ節転移被膜外浸潤進展度分類と進展メカニズムの分子細胞生物学的研究	長谷川 巧実	歯科口腔外科	26,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
シミュレーション解析と数理モデルによる肺がん分子標的薬の薬効予測の研究	高岡 裕	医療情報部	1,560,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
地域連携クリティカルパスを用いた標準的癌診療工程プロセスとその最適化	小林 大介	医療システム学分野	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
ビッグデータを用いた非がん終末期の医療と療養場所に関する疫学研究	坂下 明大	緩和支援治療科	520,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
がん幹細胞化に関与するSphere形成メカニズムを標的とした革新的治療開発	掛地 吉弘	食道胃腸外科	130,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
放射線シミュレータの革新	山下 智弘	医療情報部	195,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
照射放射線質の違いによるがん転移能への影響に関するデータベース作成	出水 祐介	放射線腫瘍科	195,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
照射放射線質の違いによるがん転移能への影響に関するデータベース作成	沖本 智昭	放射線腫瘍科	195,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトIPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた骨再生療法の確立	福井 友章	整形外科	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトIPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた骨再生療法の確立	新倉 隆宏	整形外科	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	馬屋原 博	放射線腫瘍科	65,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
赤外線マルチカメラによる胸腔鏡下手術支援システムの開発	眞庭 謙昌	呼吸器外科	65,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
赤外線マルチカメラによる胸腔鏡下手術支援システムの開発	田中 雄悟	呼吸器外科	65,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞組織形成を見据えた界面ネットワークのダイナミクス解析	富樫 英	分子細胞生物学分野	195,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
終末期の鎮静の生命倫理的・医学的位置づけに関するアジア・ヨーロッパ国際共同研究	木澤 義之	緩和支援治療科	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
個別化治療を見据えた唾液腺癌の分子病理学的解析:大規模多施設共同研究	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
肺がん患者における術中麻酔薬による免疫抑制メカニズムの機序解明と予後への影響	井上 茂亮	災害・救急医学分野 先進救命救急医学部門	195,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
新規HDL機能評価法を用いた糖代謝異常患者に対する急性冠症候群発症阻止の戦略	石田 達郎	医学教育学分野医学教育学部門	63,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
福山型筋ジストロフィーおよび新規リポリン酸異常症の治療薬開発と分子病態解明	小林 千浩	分子脳科学分野	5,850,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ストレス喘息の病態発症におけるオピオイド受容体遺伝子多型-内分泌-免疫応答の解析	曾良 一郎	精神科神経科	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
骨軟部腫瘍における診断マーカーの同定と腫瘍概念の再構築を目指した融合遺伝子の探索	河本 旭哉	整形外科	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
行動の構造:比較認知神経科学によるアプローチ	橘 吉寿	システム生理学分野	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
糖アルコールリン酸のバイオロジ	小林 千浩	分子脳科学分野	6,500,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性多発う蝕の発生機序の解明と予防法に関する多施設共同ランダム化比較試験	長谷川 巧実	歯科口腔外科	26,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
がんゲノム医療: Precision Nursing Care Program開発	須藤 保	肝胆膵外科学	260,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
グリアとニューロンによるヒト脳の包括的てんかんネットワーク	松本 理器	脳神経内科	65,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
イメージングバイオマーカーとしての実効横緩和率の有用性および標準化に関する検討	堀 雅敏	放射線診断学分野放射線医工学部門	115,200	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
アジアに展開する感染症研究拠点を活用した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する緊急研究	森 康子	臨床ウイルス学分野	520,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
肝移植診療に患者及びドナーが主体的に参加するための情報環境の確立及び評価	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学分野	34,424	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
microRNAを介したユビキチンリガーゼの機能制御解析と脳機能障害治療への応用	大村 友博	薬剤部	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
医療用医薬品による膵腺房細胞の分化転換によるインスリン分泌細胞の再誘導	綿本 有希子	薬剤部	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
NF-κB経路の抑制に着目した敗血症性筋萎縮の新規薬物治療	大野 雄康	救命救急科	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
胎盤異常に着目した独自の周産期障害モデルマウスの解析	森岡 裕香	附属動物実験施設	2,785,503	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
深層学習を用いた胸部単純X線写真の自動診断と医師への読影支援	西尾 瑞穂	放射線診断・IVR科	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
自閉症の生物学的統合研究	内匠 透	生理学分野	40,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
精神神経疾患を理解するシナプスのスクラップ&ビルド	内匠 透	生理学分野	18,980,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
肝移植後C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療の薬剤耐性機序の解明	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学分野	1,567,140	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ユビキチンテクノロジーの創出によるウイルス出芽の解剖	有井 潤	臨床ウイルス学分野	3,667,461	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
生死を分ける脳炎発火点の解明	有井 潤	臨床ウイルス学分野	4,078,796	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
HSV細胞間伝播の分子機構	有井 潤	臨床ウイルス学分野	1,822,646	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
医用画像ビッグデータ解析によるコンピュータ支援診断システム開発	堀 雅敏	放射線診断学	44,609	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
梗塞後心室リモデリングに対するバイオメカニクスによる新たな治療戦略の開発	鷹羽 淨頭	救命救急科	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

計 454

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Mariko Ashina, Kazumichi Fujioka, Kosuke Nishida, et al.	総合周産期母子医療センター	Recombinant human thrombomodulin attenuated sepsis severity in a non-surgical preterm mouse model	Sci Rep. 2020 Jan;10(1):333	Original Article
2	Yu Kuroiwa, Tomoaki Fukui, Shunsuke Takahara, et al.	リハビリテーション部	Topical cutaneous application of CO2 accelerates bone healing in a rat femoral defect model	BMC Musculoskelet Disord. 2019 May;20(1):237	Original Article
3	Masato Ogawa, Naofumi Yoshida, Seimi Satomi-Kobayashi, et al.	リハビリテーション部	Efficacy of preoperative amino acid supplements on postoperative physical function and complications in open heart surgery patients: A study protocol for a randomized controlled trial	J Cardiol. 2019 Oct;74(4):360-365	Original Article
4	Kimihiko Goto, Shunsuke Goto, Hideki Fujii, et al.	腎・血液浄化センター	Effects of lanthanum carbonate on bone markers and bone mineral density in incident hemodialysis patients	J Bone Miner Metab. 2019 Nov;37(6):1075-1082	Original Article
5	Hideki Fujii, Shuhei Watanabe, Keiji Kono, et al.	腎・血液浄化センター	One-Year Impact of Kidney Transplantation on Cardiac Abnormalities and Blood Pressure in Hemodialysis Patients	Ther Apher Dial. 2019 Dec;23(6):529-533	Original Article
6	Madoka Takao, Elif Bilgic, Kevin Waschke, et al.	光学医療診療部	Defining competencies for endoscopic submucosal dissection (ESD) for gastric neoplasms	Surg Endosc. 2019 Apr;33(4):1206-1215	Original Article
7	Atsushi Uda, Takeshi Kimura, Sho Nishimura, et al.	薬剤部	Efficacy of educational intervention on reducing the inappropriate use of oral third-generation cephalosporins	Infection. 2019 Dec;47(6):1037-1045	Original Article

小計 7 件

8	Kazuhiro Yamamoto, Sachiyo Fukushima, Yui Mishima, et al.	薬剤部	Pharmacokinetic assessment of alprazolam-induced neonatal abstinence syndrome using physiologically based pharmacokinetic model	Drug Metab Pharmacokinet. 2019 Dec;34(6):400-402	Original Article
9	Atsushi Uda, Issei Tokimatsu, Chihiro Koike, et al.	薬剤部	Antibiotic de-escalation therapy in patients with community-acquired nonbacteremic pneumococcal pneumonia	Int J Clin Pharm. 2019 Dec;41(6):1611-1617	Original Article
10	Takeshi Kimura, Fumie Ogura, Yukiko Kukita, et al.	薬剤部	Efficacy of pharmacists' assessment and intervention based on Screening Tool for Older Persons' Appropriate Prescriptions for Japanese compared with Screening Tool of Older Persons' potentially inappropriate Prescriptions criteria version 2 in older patie	Geriatr Gerontol Int. 2019 Nov;19(11):1101-1107	Original Article
11	Kazuhiro Yamamoto, Takeshi Ioroi, Kenichi Harada, et al.	薬剤部	Safety and Efficacy of Bis-Glyceryl Ascorbate (Amitose DGA) to Prevent Hand-Foot Skin Reaction in Patients With Renal Cell Carcinoma Receiving Sunitinib Therapy: Protocol for a Phase I/II, Uncontrolled, Single-Arm, Open-Label Trial	JMIR Res Protoc. 2019 Aug;8(8):e14636	Original Article
12	Atsushi Uda, Katsumi Shigemura, Koichi Kitagawa, et al.	薬剤部	How Does Antimicrobial Stewardship Affect Inappropriate Antibiotic Therapy in Urological Patients?	Antibiotics (Basel). 2020 Feb 6;9(2):63	Original Article
13	Hiroya Sakaguchi, Takashi Toyonaga, Hidetoshi Kaku, et al.	消化器内科	The crane technique: a novel traction method for use during rectal endoscopic submucosal dissection	Endoscopy. 2019 Apr; 51(4): E88-E89	Original Article
14	Shinwa Tanaka, Takashi Toyonaga, Hidetoshi Kaku, et al.	消化器内科	A novel traction device (EndoTrac) for use during endoscopic submucosal dissection	Endoscopy. 2019 Apr; 51(4): E90-E91	Original Article
15	Hideyuki Shiomi, Takashi Kobayashi, Arata Sakai, et al.	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided gastrojejunostomy using fully covered metal stent combined with large-loop double-pigtail stent for malignant afferent loop syndrome	Endoscopy. 2019 Oct;51(10):E303-E304	Case report

小計 8 件

16	Hideyuki Shiommi, Arata Sakai, Takashi Kobayashi, et al.	消化器内科	A rescue approach using a neo papilla for choledocholithiasis in patient with benign duodenal stricture	Endoscopy. 2019 Nov;51(11):E327-E328	Case report
17	Takuya Ikegawa, Arata Sakai, Yuzo Kodama	消化器内科	Successful endoscopic closure of an esophagobronchial fistula as a result of a pancreatic pseudocyst with the over-the-scope clip system and endoscopic nasopancreatic drainage	Dig Endosc. 2019 Jul;31(4):465	Case report
18	Yoshiko Nakano, Toshitatsu Takao, Yoshinori Morita, et al.	消化器内科	Endoscopic plumbage with polyglycolic acid sheets and fibrin glue for gastrointestinal fistulas	Surg Endosc. 2019 Jun;33(6):1795-1801	Original Article
19	Shinwa Tanaka, Takashi Toyonaga, Fumiaki Kawara, et al.	消化器内科	Novel per-oral endoscopic myotomy method preserving oblique muscle using two penetrating vessels as anatomic landmarks reduces postoperative gastroesophageal reflux	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Dec;34(12):2158-2163	Original Article
20	Sasaki K, Inoue J, Sasaki D, et al.	消化器内科	Construction of a Model Culture System of Human Colonic Microbiota to Detect Decreased Lachnospiraceae Abundance and Butyrogenesis in the Feces of Ulcerative Colitis Patients	Biotechnol J. 2019 May;14(5):e1800555	Original Article
21	Masato Ogawa, Seimi Satomi-Kobayashi, Naofumi Yoshida, et al.	循環器内科	Effects of acute-phase multidisciplinary rehabilitation on unplanned readmissions after cardiac surgery	J Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Dec;S0022-5223(19)36114-8	Original Article
22	Makiko Suto, Kensuke Matsumoto, Sachiko Kido, et al.	循環器内科	Advanced Pulmonary Hypertension Due to Congenital Double-shunt Successfully Treated with Surgical Repair and Up-front Combination Therapy	Intern Med. 2019 May; 58(9): 1301-1305	Case report
23	Hiroki Takada, Hidekazu Tanaka, Shun Yokota, et al.	循環器内科	Association of Relatively Short Posterior Mitral Leaflet With Mitral Regurgitation in Patients With Atrial Fibrillation	Circ J. 2019 Oct;83(11):2312-2319	Original Article

小計 8 件

24	Tomomi Akita, Kunihiro Kiuchi, Koji Fukuzawa, et al.	循環器内科	Lesion distribution after cryoballoon ablation and hotballoon ablation: Late-gadolinium enhancement magnetic resonance imaging analysis	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Oct;30(10):1830-1840	Original Article
25	Toshihiro Nakamura, Kunihiro Kiuchi, Koji Fukuzawa, et al.	循環器内科	Successful modulation of atrial fibrillation drivers anchoring to fibrotic tissue after box isolation using an online real-time phase mapping system: ExTRa Mapping	J Arrhythm. 2019 Sep;35(5):733-736	Case report
26	Kiyohiro Hyogo, Akihiro Yoshida, Motoshi Takeuchi, et al.	循環器内科	One-year clinical outcomes of anticoagulation therapy among Japanese patients with atrial fibrillation: The Hyogo AF Network (HAF-NET) Registry	J Arrhythm. 2019 Aug;35(5):697-708	Original Article
27	Toshihiko Oshita, Ryuji Toh, Masakazu Shinohara, et al.	循環器内科	Elevated Serum Elaidic Acid Predicts Risk of Repeat Revascularization After Percutaneous Coronary Intervention in Japan	Circ J. 2019 Apr;83(5):1032-1038	Original Article
28	Tamada N, Nakayama K, Yanaka K, et al.	循環器内科	Pulmonary Endarterectomy and Balloon Pulmonary Angioplasty for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension — Similar Effects on Health-Related Quality of Life —	Circ Rep. 2019 Apr; 1(5): 228-234	Original Article
29	Yutaka Hatani, Hidekazu Tanaka, Yasuhide Mochizuki, et al.	循環器内科	Association of body fat mass with left ventricular longitudinal myocardial systolic function in type 2 diabetes mellitus	J Cardiol. 2020 Feb;75(2):189-195	Original Article
30	Yuichi Nagamatsu, Shumpei Mori, Koji Fukuzawa, et al.	循環器内科	Anatomical characteristics of the superior epigastric artery for epicardial ablation using the anterior approach	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Aug;30(8):1339-1340	Original Article
31	Koji Fukuzawa, Yuichi Nagamatsu, Shumpei Mori, et al.	循環器内科	Percutaneous Pericardiocentesis With the Anterior Approach: Demonstration of the Precise Course With Computed Tomography	JACC Clin Electrophysiol. 2019 Jun;5(6):730-741	Original Article

小計 8 件

32	Fumitaka Soga, Hidekazu Tanaka, Yasuhide Mochizuki, et al.	循環器内科	Combined assessment of left atrial volume parameters for predicting recurrence of atrial fibrillation following pulmonary vein isolation in patients with paroxysmal atrial fibrillation	Echocardiography. 2019 May;36(5):862-869	Original Article
33	Mukai J, Mori S, Katsumori-Yoshimura Y, et al.	循環器内科	Acute Adrenal Insufficiency Precipitated by the Discontinuation of a Betamethasone and Dextrochlorpheniramine Combination: The Diagnostic Utility of an Echocardiographic Assessment of Systemic Vascular Resistance	Intern Med. 2019 Jul;58(14):2045-2049	Case report
34	Hidekazu Tanaka, Fumitaka Soga, Kazuhiro Tatsumi, et al.	循環器内科	Positive effect of dapagliflozin on left ventricular longitudinal function for type 2 diabetic mellitus patients with chronic heart failure	Cardiovasc Diabetol. 2020 Jan;19(1):6	Original Article
35	Makoto Takemoto, Mitsuru Takami, Koji Fukuzawa, et al.	循環器内科	Different tissue thermodynamics between the 40W and 20W radiofrequency power settings under the same ablation index/lesion size index	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Jan;31(1):196-204	Original Article
36	Shun Yokota, Hidekazu Tanaka, Yasuhide Mochizuki, et al.	循環器内科	Association of glycemic variability with left ventricular diastolic function in type 2 diabetes mellitus	Cardiovasc Diabetol. 2019 Dec;18(1):166	Original Article
37	Manabu Nagao, Kazuya Miyashita, Kenta Mori, et al.	循環器内科	Serum concentration of full-length- and carboxy-terminal fragments of endothelial lipase predicts future cardiovascular risks in patients with coronary artery disease	J Clin Lipidol. Sep-Oct 2019;13(5):839-846	Original Article
38	Toba T, Shinke T, Otake H, et al.	循環器内科	Impact of dual antiplatelet therapy with adjusted-dose prasugrel on mid-term vascular response in patients undergoing elective percutaneous coronary intervention with everolimus-eluting stents	Heart Vessels. 2019 Jun;34(6):936-947	Original Article
39	Tatsunori Kiri, Masatsugu Yamamoto, Tatsuya Nagano, et al.	呼吸器内科	Pseudo-Progression and the Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio in Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Immune Checkpoint Inhibitors: A Case-Control Study	Onco Targets Ther. 2019 Dec;12:10559-10568	Original Article

小計 8 件

40	Motoko Tachihara, Tatsunori Kiri, Akito Hata, et al.	呼吸器内科	A multi-center, Phase II trial of nab-paclitaxel and gemcitabine in patients with non-small-cell lung cancer previously treated with platinum-based chemotherapy	Cancer Manag Res. 2019 Jul;11:7135-7140	Original Article
41	Wiwin Is Effendi, Tatsuya Nagano, Motoko Tachihara, et al.	呼吸器内科	Synergistic interaction of gemcitabine and paclitaxel by modulating acetylation and polymerization of tubulin in non-small cell lung cancer cell lines	Cancer Manag Res. 2019 Apr;11:3669-3679	Original Article
42	Sekiguchi Kenji, Kohara Nobuo, Watanabe Shunsuke, et al.	脳神経内科	Hybrid Recording System of Electromyography and Ultrasound in Neuromuscular Disorder	Neurology. 2019 Apr; 92(15)	Original Article
43	Soshi Takahashi, Jun Saegusa, Akira Onishi, et al.	膠原病リウマチ内科	Biomarkers identified by serum metabolomic analysis to predict biologic treatment response in rheumatoid arthritis patients	Rheumatology (Oxford). 2019 Dec;58(12):2153-2161	Original Article
44	Nao Mizusaki, Kazuhiro Nomura, Tetsuya Hosooka, et al.	糖尿病・内分泌内科	The Novel Lipid-Lowering Drug D-47 Ameliorates Hepatic Steatosis and Promotes Brown/Beige-Like Change of White Adipose Tissue in db/db Mice	Kobe J Med Sci. 2019 Jun;65(1):E36-E43	Original Article
45	Ryusaku Matsumoto, Hidetaka Suga, Takashi Aoi, et al.	糖尿病・内分泌内科	Congenital pituitary hypoplasia model demonstrates hypothalamic OTX2 regulation of pituitary progenitor cells	J Clin Invest. 2020 Feb;130(2):641-654	Original Article
46	Naoko Chayahara, Toru Mukohara, Motoko Tachihara, et al.	腫瘍・血液内科	Adapalene Gel 0.1% Versus Placebo as Prophylaxis for Anti-Epidermal Growth Factor Receptor-Induced Acne-Like Rash: A Randomized Left-Right Comparative Evaluation (APPEARANCE)	Oncologist. 2019 Jul; 24(7): 885-e413	Original Article
47	Keiko Goto, Yutaka Fujiwara, Takeshi Isobe, et al.	腫瘍・血液内科	Pharmacokinetic study of the oral fluorouracil antitumor agent S-1 in patients with impaired renal function	Cancer Sci. 2019 Jun;110(6):1987-1994	Original Article

小計 8 件

48	Hideaki Goto, Yohei Shimono, Yohei Funakoshi, et al.	腫瘍・血液内科	Adipose-derived stem cells enhance human breast cancer growth and cancer stem cell-like properties through adipsin	Oncogene. 2019 Feb;38(6):767-779	Original Article
49	Masanori Toyoda, Koichiro Watanabe, Taro Amagasaki, et al.	腫瘍・血液内科	A phase I study of single-agent BEZ235 special delivery system sachet in Japanese patients with advanced solid tumors	Cancer Chemother Pharmacol. 2019 Feb;83(2):289-299	Original Article
50	Hironobu Minami, Yutaka Fujiwara, Kei Muro, et al.	腫瘍・血液内科	Phase I study of BGT226, a pan-PI3K and mTOR inhibitor, in Japanese patients with advanced solid cancers	Cancer Chemother Pharmacol. 2019 Aug;84(2):337-343	Original Article
51	Yu Mizutani, Aki Inase, Yimamu Maimaitili, et al.	腫瘍・血液内科	An mTORC1/2 dual inhibitor, AZD2014, acts as a lysosomal function activator and enhances gemtuzumab ozogamicin-induced apoptosis in primary human leukemia cells	Innt J Hemotol. 2019 Oct;110(4):490-499	Original Article
52	Yakushijin K, Ikezoe T, Ohwada C, et al.	腫瘍・血液内科	Clinical effects of recombinant thrombomodulin and defibrotide on sinusoidal obstruction syndrome after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Bone Marrow Transplant. 2019 May;54(5):674-680	Original Article
53	Sachiyo Fukushima, Ichiro Morioka, Shohei Ohyama, et al.	小児科	Prediction of poor neurological development in patients with symptomatic congenital cytomegalovirus diseases after oral valganciclovir treatment	Brain Dev. 2019 Oct;41(9):743-750	Original Article
54	Shohei Ohyama, Kazumichi Fujioka, Sachiyo Fukushima, et al.	小児科	Diagnostic Value of Cytomegalovirus IgM Antibodies at Birth in PCR-Confirmed Congenital Cytomegalovirus Infection	Int J Mol Sci. 2019 Jul;20(13):3239	Original Article
55	China Nagano, Naoya Morisada, Kandai Nozu, et al.	小児科	Clinical characteristics of HNF1B-related disorders in a Japanese population	Clin Exp Nephrol. 2019 Sep;23(9):1119-1129	Original Article

小計 8 件

56	Tomohiko Yamamura, Kandai Nozu, Shogo Minamikawa, et al.	小児科	Comparison between conventional and comprehensive sequencing approaches for genetic diagnosis of Alport syndrome	Mol Genet Genomic Med. 2019 Sep;7(9):e883	Original Article
57	Tomoko Horinouchi, Kandai Nozu, Tomohiko Yamamura, et al.	小児科	Determination of the pathogenicity of known COL4A5 intronic variants by in vitro splicing assay	Sci Rep. 2019 Sep;9(1):12696	Original Article
58	China Nagano, Tomohiko Yamamura, Tomoko Horinouchi, et al.	小児科	Comprehensive genetic diagnosis of Japanese patients with severe proteinuria	Sci Rep. 2020 Jan;10(1):270	Original Article
59	Keita Nakanishi, Takayuki Okamoto, Kandai Nozu, et al.	小児科	Pair analysis and custom array CGH can detect a small copy number variation in COQ6 gene.	Clin Exp Nephrol. 2019 May;23(5):669–675	Case report
60	Hiroshi Yamaguchi, Hiroaki Nagase, Masahiro Nishiyama, et al.	小児科	Nonconvulsive Seizure Detection by Reduced-Lead Electroencephalography in Children with Altered Mental Status in the Emergency Department	J Pediatr. 2019 Apr;207:213–219.e3	Original Article
61	China Nagano, Mayumi Sako, Koichi Kamei, et al.	小児科	Study protocol: multicenter double-blind, randomized, placebo-controlled trial of rituximab for the treatment of childhood-onset early-stage uncomplicated frequently relapsing or steroid-dependent nephrotic syndrome (JSKDC10 trial)	BMC Nephrol. 2019 Aug;20(1):293	Original Article
62	Masahiro Nishiyama, Hiroaki Nagase, Kazumi Tomioka, et al.	小児科	Clinical time course of pediatric acute disseminated encephalomyelitis	Brain Dev. 2019 Jun; 41(6): 531–537	Original Article
63	Masaaki Matsumoto, Hiroyuki Awano, Yushi Hirota, et al.	小児科	The prescription rates of glucagon for hypoglycemia by pediatricians and physicians are low in Japan	Endocrine. 2019 May; 64(2): 233–238	Original Article

小計 8 件

64	Toshihiko Oshita, Ryuji Toh, Masakazu Shinohara, et al.	小児科	Predicting the outcomes of targeted temperature management for children with seizures and/or impaired consciousness accompanied by fever without known etiology	Brain Dev. 2019 Aug;41(7):604-613	Original Article
65	Ohara Y, Okada Y, Yamada T, et al.	小児科	Phenotypic differences and similarities of monozygotic twins with maturity-onset diabetes of the young type 5	J Diabetes Investig. 2019 Jul;10(4):1112-1115	Original Article
66	Yasuyuki Shimizu, Naritoshi Mukumoto, Nelly Idrus, et al.	放射線腫瘍科	Amelioration of Radiation Enteropathy by Dietary Supplementation With Reduced Coenzyme Q10	Adv Radiat Oncol. 2019 Jan;4(2):237-245	Original Article
67	Ryohei Sasaki, Yusuke Demizu, Tomohiro Yamashita, et al.	放射線腫瘍科	First-In-Human Phase 1 Study of a Nonwoven Fabric Bioabsorbable Spacer for Particle Therapy: Space-Making Particle Therapy (SMPT)	Adv Radiat Oncol. 2019 May;4(4):729-737	Original Article
68	Masao Nakayama, Kazuyuki Uehara, Hideki Nishimura, et al.	放射線腫瘍科	Retrospective assessment of a single fiducial marker tracking regimen with robotic stereotactic body radiation therapy for liver tumours	Rep Pract Oncol Radiother. Jul-Aug 2019;24(4):383-391	Original Article
69	Daisuke Yokoyama, Makoto Kunisada, Korefumi Nakamura, et al.	皮膚科	Case of two lesions of dermatofibrosarcoma protuberans revealing identical COL1A1-PDGFB fusion gene: Skin metastasis or multicentric lesions?	J Dermatol. 2019 Nov;46(11):e398-e400	Case report
70	Yoshiko Oda, Atsushi Fukunaga, Ken Washio, et al.	皮膚科	Low Responsiveness of Basophils via Fc ϵ RI Reflects Disease Activity in Chronic Spontaneous Urticaria	J Allergy Clin Immunol Pract. Nov-Dec 2019;7(8):2835-2844.e7	Original Article
71	Makoto Kunisada, Kiyofumi Yamanishi, Chikako Nishigori	皮膚科	Japanese case of Mal de Meleda with a novel missense mutation of p.Thr52Ala in the second protruding finger of secreted Ly-6/uPAR-related protein 1	J Dermatol. 2019 Jul;46(7):e235-e237	Case report

小計 8 件

72	Ken Okamura, Masahiro Hayashi, Yuko Abe, et al.	皮膚科	NGS-based targeted resequencing identified rare subtypes of albinism: Providing accurate molecular diagnosis for Japanese patients with albinism	Pigment Cell Melanoma Res. 2019 Nov;32(6):848–853	Original Article
73	Nakatani Shoko, Oda Yoshiko, Washio Ken, et al.	皮膚科	The Urticaria Control Test and Urticaria Activity Score correlate with quality of life in adult Japanese patients with chronic spontaneous urticaria	Allergol Int. 2019 Apr;68(2):279–281	Letter
74	Chieko Hosaka, Makoto Kunisada, Michiyo Koyanagi-Aoi, et al.	皮膚科	Induced pluripotent stem cells-derived melanocyte precursor cells undergoing differentiation into melanocytes	Pigment Cell Melanoma Res. 2019 Sep;32(5):623–633	Original Article
75	Jimbo H, Fujiwara S, Nagai H, et al.	皮膚科	Case of histiocytosis with bone involvement of fingers successfully treated with peginterferon- α	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e94–e95	Case report
76	Hidetoshi Gon, Shohei Komatsu, Sae Murakami, et al.	肝胆膵外科	Real-time navigation during hepatectomy using fusion indocyanine green–fluorescence imaging: protocol for a prospective cohort study	BMJ Open. 2019 Aug;9(8):e030233	Original Article
77	Sachiyo Shirakawa, Hirochika Toyama, Masahiro Kido, et al.	肝胆膵外科	A prospective single-center protocol for using near-infrared fluorescence imaging with indocyanine green during staging laparoscopy to detect small metastasis from pancreatic cancer	BMC Surg. 2019 Nov;19(1):165	Original Article
78	Motofumi Tanaka, Masahiro Kido, Kaori Kuramitsu, et al.	肝胆膵外科	Efficacy of the bile leak test using contrast-enhanced intraoperative ultrasonic cholangiography in liver resection: a study protocol for a non-randomised, prospective, off-label, single-arm trial	BMJ Open. 2019 Jun;9(6):e029330	Original Article
79	Shohei Komatsu, Kazuki Terashima, Yoshiro Matsuo, et al.	肝胆膵外科	Validation of combination treatment with surgical spacer placement and subsequent particle radiotherapy for unresectable hepatocellular carcinoma	J Surg Oncol. 2019 Aug;120(2):214–222	Original Article

小計 8 件

80	Takuya Mizumoto, Kazuki Terashima, Yoshiro Matsuo, et al.	肝胆膵外科	Proton Radiotherapy for Isolated Local Recurrence of Primary Resected Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Ann Surg Oncol. 2019 Aug;26(8):2587-2594	Original Article
81	Daisuke Tsugawa, Shohei Komatsu, Yusuke Demizu, et al.	肝胆膵外科	Space-Making Particle Therapy with Surgical Spacer Placement in Patients with Sacral Chordoma	J Am Coll Surg. 2020 Feb; 30(2): 207-215	Original Article
82	Takeshi Urade, Toshihiko Yoshida, Naoko Ikeo, et al.	肝胆膵外科	Novel biodegradable magnesium alloy clips compared with titanium clips for hepatectomy in a rat model	BMC Surg. 2019 Sep;19(1):130	Original Article
83	Maho Miyaji, Masashi Deguchi, Kenji Tanimura, et al.	産科婦人科	Clinical factors associated with pregnancy outcome in women with recurrent pregnancy loss	Gynecol Endocrinol. 2019 Oct;35(10):913-918	Original Article
84	Akiko Uchida, Kenji Tanimura, Mayumi Morizane, et al.	産科婦人科	Clinical factors associated with congenital cytomegalovirus infection: A cohort study of pregnant women and newborns	Clin Infect Dis. 2019 Dec;ciz1156	Original Article
85	Hideto Yamada, Kenji Tanimura, Masashi Deguchi, et al.	産科婦人科	A cohort study of maternal screening for congenital Toxoplasma gondii infection: 12 years' experience	J Infect Chemother. 2019 Jun; 25(6): 427-430	Original Article
86	Yasushi Motoyama, Yoshitetsu Oshiro, Yumiko Takao, et al.	麻酔科	Resting-state brain functional connectivity in patients with chronic pain who responded to subanesthetic-dose ketamine	Sci Rep. 2019 Sep;9(1):12912	Original Article
87	Takuya Okada, Takuya Yoshida, Shohei Makino, et al.	麻酔科	Anesthetic Management of Transcatheter Aortic Valve Replacement under Extracorporeal Membrane Oxygenation in a Patient with Acute Decompensated Heart Failure: A Case Report	Kobe J Med Sci. 2019 Nov;65(3):E90-E94	Case report

小計 8 件

88	Nobuyuki Hinata, Yukari Bando, Masato Fujisawa	泌尿器科	HISTOLOGICAL INVESTIGATION OF THE LYMPHATIC VESSEL CONFIGURATION IN THE HUMAN MALE URINARY BLADDER: ANATOMICAL BASIS FOR METASTATIC DISEASE	J Urol. 2019 Apr; 201(4): E442-E442	Original Article
89	Nobuyuki Hinata, Yukari Bando, Koji Chiba, et al.	泌尿器科	Application of hyaluronic acid/carboxymethyl cellulose membrane for early continence after nerve-sparing robot-assisted radical prostatectomy	BMC Urol. 2019 Apr; 19(1): 25-25	Original Article
90	Yukari Bando, Mariko Sakamoto, Yasuyoshi Okamura, et al.	泌尿器科	NEUTROPHIL-TO-LYMPHOCYTE RATIO AS A PREDICTIVE BIOMARKER FOR RESPONSE TO NIVOLUMAB IN ASIAN PATIENTS WITH METASTATIC RENAL CELL CARCINOMA	J Urol. 2019 Apr; 201(4): E344-E345	Original Article
91	Katsumi Shigemura, Kazushi Tanaka, Ryoichi Hamasuna, et al.	泌尿器科	Efficacy of Prophylactic Antimicrobial Administration of Tazobactam/Piperacillin for Radical Cystectomy with Urinary Diversion: A Multicenter Study	Urol Int. 2019 Apr; 102: 293-298	Original Article
92	Junya Furukawa, Nobuyuki Hinata, Yuzo Nakano, et al.	泌尿器科	DOES SELECTIVE CLAMPING IMPROVE KIDNEY FUNCTION DURING ROBOT-ASSISTED PARTIAL NEPHRECTOMY? A PROPENSITY SCORE MATCHED COMPARISON OF DIFFERENT CLAMPING TECHNIQUES	J Urol. 2019 Apr; 201(4): E748-E748	Original Article
93	Yasuyoshi Okamura, Tomoaki Terakawa, Mariko Sakamoto, et al.	泌尿器科	Presurgical Pazopanib Improves Surgical Outcomes for Renal Cell Carcinoma With High-level IVC Tumor Thrombosis	In Vivo. Nov-Dec 2019;33(6):2013-2019	Original Article
94	Kotaro Suzuki, Tomoaki Terakawa, Katsumi Shigemura, et al.	泌尿器科	Identification of favorable subgroups for alternative anti-androgen therapy in castration-resistant prostate cancer	Mol Clin Oncol. 2019 Nov;11(5):523-530	Original Article
95	Kotaro Suzuki, Michiyo Koyanagi-Aoi, Keiichiro Uehara, et al.	泌尿器科	ENHANCED DIFFERENTIATION AND STRATIFICATION OF BLADDER UROTHELIUM FROM HUMAN INDUCED PLURIPOTENT STEM CELL	J Urol. 2019 Apr; 201(4): E155-E156	Original Article

小計 8 件

96	Yukari Bando, Nobuyuki Hinata, Tomoaki Terakawa, et al.	泌尿器科	Diagnostic and therapeutic value of pelvic lymph node dissection in the fossa of Marcille in patients with clinically localized high-risk prostate cancer: Histopathological and molecular analyses	Prostate. 2020 Mar;80(4):345-351	Original Article
97	Junya Furukawa, Hiroomi Kanayama, Haruhito Azuma, et al.	泌尿器科	'Trifecta' outcomes of robot-assisted partial nephrectomy: a large Japanese multicenter study	Int J Clin Oncol. 2020 Feb;25(2):347-353	Original Article
98	Yasuyoshi Okamura, Nobuyuki Hinata, Tomoaki Terakawa, et al.	泌尿器科	External validation of nomograms for prediction of progression-free survival and liver toxicity in patients with advanced renal cell carcinoma treated with pazopanib	Int J Clin Oncol. 2019 Jun; 24(6): 698-705	Original Article
99	Kotaro Suzuki, Michiyo Koyanagi-Aoi, Keiichiro Uehara, et al.	泌尿器科	Directed differentiation of human induced pluripotent stem cells into mature stratified bladder urothelium	Sci Rep. 2019 Jul;9(1):10506	Original Article
100	Kotaro Suzuki, Tomoaki Terakawa, Junya Furukawa, et al.	泌尿器科	C-reactive protein and the neutrophil-to-lymphocyte ratio are prognostic biomarkers in metastatic renal cell carcinoma patients treated with nivolumab	Int J Clin Oncol. 2020 Jan;25(1):135-144	Original Article
101	Shirakawa T, Kitagawa K, Tatsumi M, et al.	泌尿器科	Preclinical development of a WT1 oral cancer vaccine using a bacterial vector to treat castration-resistant prostate cancer	Mol Cancer Ther. 2019 May;18(5):980-990	Original Article
102	Tomoyuki Kamenaga, Shinya Hayashi, Shingo Hashimoto, et al.	整形外科	Accuracy of cup orientation and learning curve of the accelerometer-based portable navigation system for total hip arthroplasty in the supine position	J Orthop Surg (Hong Kong). May-Aug 2019;27(2):2309499019848871	Original Article
103	Takahiro Niikura, Takashi Iwakura, Takashi Omori, et al.	整形外科	Topical cutaneous application of carbon dioxide via a hydrogel for improved fracture repair: results of phase I clinical safety trial	BMC Musculoskelet Disord. 2019 Nov;20(1):563	Original Article

小計 8 件

104	Yoshiki Takeoka, Takashi Yurube, Koichi Morimoto, et al.	整形外科	Reduced nucleotomy-induced intervertebral disc disruption through spontaneous spheroid formation by the Low Adhesive Scaffold Collagen (LASColl)	Biomaterials. 2020 Mar;235:119781	Original Article
105	Miho Inoue, Yoshitada Sakai, Keisuke Oe, et al.	整形外科	Transcutaneous carbon dioxide application inhibits muscle atrophy after fracture in rats	J Orthop Sci. 2020 Mar;25(2):338-343	Original Article
106	Kuroda Y, Takayama K, Ishida K, et al.	整形外科	Influence of limb alignment and prosthetic orientation on patient-reported clinical outcomes in total knee arthroplasty	J Orthop Sci. 2019 Jul;24(4):668-673	Original Article
107	Naoki Otsuki, Naruhiko Morita, Tatsuya Furukawa, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Modified spiral tracheoplasty after extensive window resection of trachea for advanced thyroid cancer	Auris Nasus Larynx. 2019 Dec; 46(6): 946-951	Case report
108	Hisami Fujio, Go Inokuchi, Shunsuke Kuroki, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Three-year prospective study on olfaction of patients with Parkinson's disease	Auris Nasus Larynx. 2019 Sep;S0385-8146(19)30115-4	Original Article
109	Naoki Otsuki, Tatsuya Furukawa, Mehmet Ozgur Avinçsal, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Results of free flap reconstruction for patients aged 80 years or older with head and neck cancer	Auris Nasus Larynx. 2020 Feb;47(1):123-127	Original Article
110	Hiroataka Shinomiya, Natsumi Uehara, Masanori Teshima, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Clinical management for T1 and T2 external auditory canal cancer	Auris Nasus Larynx. 2019 Oct;46(5):785-789	Original Article
111	Hisami Fujio, Go Inokuchi, Shun Tatehara, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Characteristics of Smell Identification Test in Patients With Parkinson Disease	Clin Exp Otorhinolaryngol. 2019 May;12(2):206-211	Original Article

小計 8 件

112	Masanori Teshima, Naoki Otsuki, Hirotaka Shinomiya, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Impact of retropharyngeal lymph node dissection in the surgical treatment of hypopharyngeal cancer	Head Neck. 2019 Jun; 41(6): 1738-1744	Original Article
113	Naoki Otsuki, Naruhiko Morita, Tatsuya Furukawa, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Functional and oncological outcomes after retropharyngeal node dissection for papillary thyroid carcinoma	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2019 Jun;276(6):1809-1814	Original Article
114	Yoneda T, Kunimura N, Kitagawa K, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Overexpression of SOCS3 mediated by adenovirus vector in mouse and human castration-resistant prostate cancer cells increases the sensitivity to NK cells in vitro and in vivo	Cancer Gene Ther. 2019 Nov;26(11-12):388-399	Original Article
115	Atsuko Katsuyama, Sentaro Kusahara, Ryuto Nishisho, et al.	眼科	Long-term efficacy and safety of infliximab and cyclosporine combination therapy for refractory uveoretinitis in Behçet's disease	Clin Ophthalmol. 2019 Mar;13:521-527	Original Article
116	Hisanori Imai, Keiko Otsuka, Akira Tetsumoto, et al.	眼科	EFFECTIVENESS OF EN BLOC REMOVAL OF FIBRINOGEN-RICH COMPONENT OF CYSTOID LESION FOR THE TREATMENT OF CYSTOID MACULAR EDEMA.	Retina. 2020 Jan;40(1):154-159	Original Article
117	Akira Tetsumoto, Hisanori Imai, Mayuka Hayashida, et al.	眼科	The comparison of the surgical outcome of 27-gauge pars plana vitrectomy for primary rhegmatogenous retinal detachment between air and SF6 gas tamponade	Eye (Lond). 2020 Feb;34(2):299-306	Original Article
118	Takuji Kurimoto, Kaori Ueda, Sotaro Mori, et al.	眼科	A study protocol for evaluating the efficacy and safety of skin electrical stimulation for Leber hereditary optic neuropathy: a single-arm, open-label, non-randomized prospective exploratory study	Clin Ophthalmol. 2019 May;13:897-904	Original Article
119	Atsuko Katsuyama, Sentaro Kusahara, Shun-Ichiro Asahara, et al.	眼科	En face slab optical coherence tomography imaging successfully monitors progressive degenerative changes in the innermost layer of the diabetic retina	BMJ Open Diabetes Res Care. 2020 Mar;8(1):e001120	Original Article

小計 8 件

120	Sotaro Mori, Takuji Kurimoto, Akiyasu Kanamori, et al.	眼科	Discordance of Disc-Fovea Raphe Angles Determined by Optical Coherence Tomography and MP-3 Microperimetry in Eyes With a Glaucomatous Hemifield Defect	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2019 Apr;60(5):1403-1411	Original Article
121	Mari Sakamoto, Sotaro Mori, Kaori Ueda, et al.	眼科	En Face Slab Images Visualize Nerve Fibers With Residual Visual Sensitivity in Significantly Thinned Macular Areas of Advanced Glaucomatous Eyes	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2019 Jul;60(8):2811-2821	Original Article
122	Satomi Arimoto, Takumi Hasegawa, Daisuke Takeda, et al.	歯科口腔外科	Effect of low-intensity pulsed ultrasound after intraoral vertical ramus osteotomy	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2019 Dec;128(6):581-589	Original Article
123	Masaya Akashi, Kousuke Matsumoto, Daisuke Takeda, et al.	歯科口腔外科	Dental Rehabilitation for Free Fibula Flap-Reconstructed Mandible with Scar Contracture: A Technical Note	Dent J (Basel). 2019 Jun;7(3):65	Case report
124	Kenji Matsuo, Hiroaki Suzuki, Nanae Yatagai, et al.	歯科口腔外科	Red LED Light Is Influenced by IL-6 to Promote the Migration Ability of Oral Squamous Cell Carcinoma Cell Line	Kobe J Med Sci. 2019 Jul;64(6):E210-E216	Original Article
125	Seki S, Fujisawa Y, Yui M, et al.	放射線診断・IVR科	Dynamic Contrast-enhanced Area-detector CT vs Dynamic Contrast-enhanced Perfusion MRI vs FDG-PET/CT: Comparison of Utility for Quantitative Therapeutic Outcome Prediction for NSCLC Patients Undergoing Chemoradiotherapy	Magn Reson Med Sci. 2020 Feb;19(1):29-39	Original Article
126	Fujita Y, Taniguchi M, Tsuzuki T, et al.	脳神経外科	Application of a Minimally Invasive Liposuction Technique for Harvesting Fat during Transsphenoidal Surgery: A Technical Note	Neurol Med Chir (Tokyo). 2019 May;59(5):184-190	Case report

小計 7 件
計126件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yoshinori Morita, Ryusuke Ariyoshi, Norihiro Honda, et al.	消化器内科	New development for safer endoscopic submucosal dissection using the carbon dioxide (CO2) laser (secondary publication)	Laser Ther. 2019 Jun; 28(2): 89-96	Original Article

計 1 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 ○ 審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 9 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 8 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning 又は臨床研究推進セミナーを受講する。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・神戸大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院ならびに兵庫県・大阪府の関連病院・連携施設群の中で、内科専門医を取得することを一つの目標として、内科医としての幅広い臨床能力を育成するためのものである。初期臨床研修を修了した後に、プログラム内の病院群の中で3年間専攻医として研修を修了した時点で、内科専門医受験資格を獲得することを目標とする。

・神戸大学放射線科専門研修プログラム

本プログラムは神戸大学医学部附属病院放射線診断・IVR科と放射線腫瘍科を基幹施設とし、11ヶ所の総合修練機関、3ヶ所の特殊修練機関、13の修練機関に1つの関連施設を加えた専門研修施設群から構成される。日本専門医機構が承認した専門研修プログラム整備基準に従い放射線科領域における幅広い知識と技能、高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェッショナリズムを備えた放射線科専門医をめざして専攻医を教育する。

・神戸大学小児科専門研修プログラム

本プログラムは、日本小児科学会が求める「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるに必要かつ十分なプログラムであるだけでなく、将来のsubspecialty や個人のキャリアパスにも十分配慮した多様な選択肢を持つプログラムである。

・神戸大学皮膚科研修プログラム

本プログラムは先進的かつ安全で標準的な医療を国民に提供できる、十分な知識と技術をもつ皮膚科専門医の養成を目的とする。神戸大学医学部附属病院を研修基幹施設として、21の研修連携施設病院と3つの準連携施設病院より構成されており、各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。プログラムの研修期間は5年間である。

・神戸大学病院 連携施設 精神科専門医研修プログラム

統合失調症、気分障害をはじめとする児童思春期から老年期にわたる多岐の精神疾患の診断学、治療学について学び、看護師、作業療法士、精神保健福祉士などと多職種連携を行える精神科医を育てていく。プログラムの連携施設には、11施設の総合病院精神科神経科、19施設の公立・私立単科精神科病院が含まれ、専攻医はこれらの医療機関をローテートしながら研鑽を積み、精神科医としての診療能力を向上させつつ、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格をも取得することを目標とする。

・神戸大学外科専門研修プログラム

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の6分野が連携してプログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修の実施が可能である。連携施設として兵庫県、大阪府を中心に50施設を数え、志望する診療科や個々の希望に応じたフレキシブルな研修体制を構築している。

・神戸大学整形外科専門研修プログラム

「整形外科学領域の学識ならびに技術向上をはかり、優れた整形外科専門医を養成する」ことを目的とし、神戸大学附属病院を基幹施設とし、42連携施設で構成されている。

・神戸大学医学部脳神経外科専門研修プログラム

神戸大学医学部附属病院および連携施設において、それぞれの専門性を有した指導医のもと、症例を担当し臨床実地経験を蓄積する。大学病院では最新鋭の3テスラ術中MRI装置やハイブリッド手術室を用いた先進的な医療に参加できる。連携施設は兵庫県内にはほぼ集約され、基幹施設と連携施設での2019年の年間手術総数は4800件余りにおよび脳神経外科の全領域をカバーしている。地域の第一線医療、三次救急医療、脳血管障害専門医療、血管

内治療、小児神経疾患、脊髄疾患、機能的疾患、脳腫瘍の集約的治療、神経内視鏡手術、定位放射線治療などの特色ある治療を行っている連携施設をローテーションすることができることは、当プログラムの大きな特徴である。

・神戸大学眼科専門研修プログラム

神戸大学眼科ならびに関係病院群での研修を通じて、これまで受け継がれてきた技術や知識を生かしながら、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成、患者にとって最善かつ先端の医療を希求し生涯にわたって研鑽をつみ眼科医療に貢献することを目的とする。初期2年の研修において1年間は基幹施設である神戸大学、他の3年間は研修状況に応じて大学ないし関係病院での専門医研修を行う。

・神戸大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格を涵養し、耳・鼻・副鼻腔、口腔・咽頭、頭頸部の病態や疾患に対する豊富な知識と技術、経験を有し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、更なる医療の発展にも寄与することができる耳鼻咽喉科専門医の育成を目的とする。

・神戸大学泌尿器科専門医研修プログラム

神戸大学医学部附属病院を基幹施設とする27の連携施設から構成されており、基本的には4年間のうち1年間、基幹施設で研修を行う必要がある。本研修施設群では、一般泌尿器科に加え、小児泌尿器科、生殖医療、腎移植などの専門的な連携病院を擁し、また、ロボット支援手術を実施する病院も15施設に及んでいる。以上のプログラムの特性により量的にも質的にも多彩な泌尿器科診療を研修することができる。

・神戸大学産科婦人科研修プログラム

本プログラムでは、医師として、また産婦人科医師としての基本的診療能力や幅広い知識を確実に習得し、社会に貢献できる産婦人科医師を育成することを目標としている。周産期、婦人科腫瘍、女性のヘルスケア、生殖医療、内視鏡手術、さらに医療過疎地における地域医療に特化した連携施設での研修により、幅広く、より高度な知識・技能を持つことが可能となるよう配慮している。さらに専門研修施設群における専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門医の研修を開始する環境も整えている。

・神戸大学形成外科研修プログラム

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野である。当科専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力，社会性，倫理性を備えた形成外科医を育成することを目的としている。

・神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

プログラムに所属する全ての専攻医が、研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設、および連携施設において、専門研修に必要とされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。

・神戸大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム

基幹病院の大学では、ER、集中治療、外傷整形外科、ドクターヘリ、災害医療など救急医に必要な症例をまんべんなく経験させる。特に、総合内科と組んで、救急医療に限らず総合診療も経験させる。関連病院ではそれぞれの特徴を生かして、体幹外傷外科、ドクターカーによる病院前診療などを含めた幅広い救急医療を経験させる。

・神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム

大学病院を含む多数の連携施設と結ぶ総合的病理医育成プログラム。各専門分野にわたる豊富な指導教官 general + subespecialty ～バランスのとれた優秀な病理医を育成、個性に応じたオーダーメイドのキャリアパスを作成、各自の興味に応じた高度専門病理学の修得、分子病理学的研究にも対応。

・神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム

神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム(PG)は、患者から信頼され、まず、標準的な医療を提供できるリハビリテーション科専門医となるために、急性期、回復期、生活期のリハビリテーション医療に精通し、脳卒中、運動器、切断、小児、内部障害、そしてがんのリハビリテーションまで幅広く知識と経験を得られるよう、適切な教育を行い、十分な知識と経験を身に着けるため、神戸、播磨地区の病院群での研修を中心に構成されたプログラムになっている。本研修プログラムは、現在まで神戸大学医学部附属病院とその関連病院の先輩方が築き上げた素晴らしいリハビリテーション研修施設を横断して研修することで、日本をリードするリハビリテーション科専門医となるための基礎を身に着けてもらえると考えている。

・神戸大学臨床検査専門研修プログラム

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものである。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	101人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
西村 善博	内科	教授	37年	内科チェアマン
村上 卓道	放射線科	特命教授	35年	
飯島 一誠	小児科	教授	34年	
錦織 千佳子	皮膚科	教授	39年	
曾良 一郎	精神科神経科	教授	36年	
福本 巧	外科	教授	35年	外科チェアマン
黒田 良祐	整形外科	教授	29年	
篠山 隆司	脳神経外科	教授	26年	
中村 誠	眼科	教授	31年	
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	34年	
藤澤 正人	泌尿器科	教授	36年	
山田 秀人	産科婦人科	教授	36年	
寺師 浩人	形成外科	教授	34年	
溝渕 知司	麻酔科	教授	35年	
小谷 穰治	救命救急科	教授	33年	
伊藤 智雄	病理診断科	教授	27年	
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	24年	
三枝 淳	臨床検査部門	部長	24年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容：遠心型血液成分分離装置 テルモSpectraOptia
- ・研修の期間・実施回数：2020年2月20日
- ・研修の参加人数：13名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

○ME機器に関する研修

- ・研修の主な内容：輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、補助循環装置、その他ME機器の使用方法に関する研修
- ・研修の期間・実施回数：2019年4月1日～2020年3月31日 130回
- ・研修の参加人数：4182名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 平田 健一
管理担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 柘植 智司 管理課長 前田 正樹 学務課長 浦田 勇二 研究支援課長 長井 勝典 医事課長 輪野 透 患者サービス課長 橋本 欣也

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	患者サービス課	病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌各診療科日誌は当該担当部署において、保管している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録センター	
		看護記録	診療録センター	
		検査所見記録	診療録センター	
		エックス線写真	各診療科	
		紹介状	診療録センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
		高度の医療の研修の実績	学務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	患者サービス課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者サービス課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者サービス課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者サービス課	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	患者サービス課	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	患者サービス課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者サービス課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	患者サービス課・薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	患者サービス課・薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	患者サービス課・薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課・薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	患者サービス課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	患者サービス課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	患者サービス課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	患者サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	患者サービス課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	患者サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	患者サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	患者サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	患者サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所(外部窓口)
		職員研修の実施状況	患者サービス課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	患者サービス課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 平田 健一	
閲覧担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 柘植 智司 管理課長 前田 正樹 学務課長 浦田 勇二 研究支援課長 長井 勝典 医事課長 輪野 透 患者サービス課長 橋本 欣也	
閲覧の求めに応じる場所	応接室	
閲覧の手続の概要 総務課に申出を行い、応接室にて閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 1. 安全な医療を提供するために ・ 安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療安全管理委員会その他の病院の組織に関する基本的事項 ・ 医療に係る安全教育のための職員研修に関する基本方針 ・ 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者等に対する本指針の閲覧等に関する基本方針 ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針 2. 患者安全のための基本的事項	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 ((有)・無) ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： 1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析 2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知 3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し 4. インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告 5. 前号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導 6. その他医療安全管理に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
・ 研修の内容（すべて）： ・ 医療安全に関する職員必修講習（年2回） ・ 医療安全に関する講習会 ・ 新規採用職員合同研修	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医療スタッフポケットマニュアルの配付 2. 薬品情報検索システム 3. 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム 4. 是正処置実施計画書・報告書の作成 5. 院内巡回の定期実施 6. 医療の質・安全マシヤ-連絡会議の定期実施 7. 死亡事例の全件報告	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
- 指針の主な内容： - 院内感染対策に関する基本的考え方 - 院内感染対策のための委員会・組織 - 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 - 院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針 - 患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針 - その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド 抗菌薬適正使用支援・特定抗菌薬届出の監視・コンサルテーション・職業感染対策・ マニュアルの編集・院内環境の整備） - 感染制御の地域連携	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策委員会 年12回 感染制御部会 年12回
活動の主な内容： MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド、医療関連サーベ イランス、感染管理リンクナース会および感染制御部連絡会議開催、職業感染予防対策 （結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの 改訂、院内研修（必修講習会、ICP講習会など）の計画・実施。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16 回
- 研修の内容（すべて）： - 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義およびデモンストレーシ ョン。 - 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて 院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演。 - 全職員のうち希望者に対して、院内感染対策におけるベーシックな知識を得てもらうよう 院内認定ICP育成講習会を年4回開催。 - 職種別や部門別（医師、看護師、診療技術部門等）対象に、各職種に応じた現場で遵守 すべき感染対策の知識や技術について講義やトレーニング。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
- 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な 感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制。 - その他の改善のための方策の主な内容： - 感染対策実施状況を確認するために、定期（週1回）およびオンタイムに院内ラウンドを 実施し、必要時指導。 - 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の 使用法を検討し、随時介入指導。 - 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。 - 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。 - 職員に対して4種ウイルス（麻疹、風疹、水痘、ムンプス）の抗体価を調査し、基準値に満た ない場合は院内でワクチン接種が行える環境を整備した。 - 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底。 - 改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントの実施。 - 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生の実習前に、感染防止対策の講義と手指衛生や 個人防護具の使用方法について演習を実施。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 19回
・ 研修の主な内容： (1) 例年通り、新入局職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習を実施した。講習内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。 (2) 全職員を対象とした講習会を6月に実施した。テーマは「平成30年度における薬剤関連のインシデントについて」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。 (3) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例等を情報共有する「安全管理と医薬品情報共有のためのカンファレンス」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。 (4) 例年通り、新人看護師を対象とした「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に「ICUで使用する鎮痛薬・鎮静薬について」「簡易懸濁法について」、等をテーマとした短時間講習を実施した。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じて改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会で審議し、医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて、薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄看護師長等に連絡し改善依頼を行っている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 未承認新規医薬品は2事例について承認した。具体的には、①脳神経内科「Lambert-Eaton筋無力症候群に対する3,4-ジアミノピリジン内服治療」、②消化器内科「クリスタルバイオレットを用いた消化器色素内視鏡検査」である。適応外使用については6事例承認した。具体的には①産科婦人科「ウリナスタチン腔洗浄」、②産科婦人科「子宮収縮抑制目的のインドメタシン坐薬、ニフェジピン投与」、③産科婦人科「妊娠高血圧腎症予防目的の低用量アスピリン投与」、④心臓血管外科「輸血拒否患者に対するエリスロポエチン投与」、⑤感染症内科「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するロピナビル/リトナビル治療」、⑥感染症内科「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するシクレソニド治療」である。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビや各種ホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。 (2) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は必要に応じて院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、随時、医療の質・安全管理部、感染制御部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 1 回
研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、人工心肺装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、療用放射線照射装置についての操作方法及び管理上の注意点とトラブルシューティングについて	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (有 無) - 機器ごとの保守点検の主な内容： 院内の臨床工学技士による定期点検（定期消耗品交換含む）と、製造販売メーカー実施における点検報告書の管理	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無) - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： - その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関する安全情報の提供と不具合報告の連絡体制の強化 医療情報端末（電子カルテ）を用いての安全情報の共有	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 副病院長（リスクマネジメント担当）を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (5名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医療の質・安全管理部と連携し、年に4回程度発行する「くすのきスクエア」（医療安全、機器、感染、薬剤情報紙）により周知徹底を図っている。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂を行った。 ・ 担当者の指名の有無 (有)・無 ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有) 無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームドコンセントに関する責任者が定期的に入院診療録のピアレビューを行い、不十分な場合には適切に実施されるよう研修・指導を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録管理責任者は、定期的に診療録等の記載内容の確認を行い、不十分な場合は、記載方法や内容の研修・指導等を行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（３）名、専任（１）名、兼任（２）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（１）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： 医療安全に関すること (1) 医療安全管理委員会の方針に基づき、同委員会と連携し、院内の医療安全に努める。 (2) インシデント事例収集、分析及び再発防止策を立案する。 (3) インシデント・アクシデント審議会・事例検証会等を開催し、事例の検証、調査及び対策の立案を行う。 (4) 医療安全活動の企画、立案を行う。 (5) 院内外で収集した医療安全情報の院内周知や医療安全に関する職員教育を行う。 (6) 医療者相談・医療紛争及び医療訴訟事例等の検証を行い、対応する。 (7) 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する検討を行う。 (8) 医療安全に配慮した各種マニュアルの作成、改訂を行う。 (9) その他、医療安全に関する業務を行う。 医療の質に関すること (1) 医療情報から医療の質の評価に役立つ指標を情報分析推進室と協働で分析、評価する。 (2) 医療の質において評価が低く、問題となった点の分析、改善策の立案を行う。 (3) 臨床倫理に関した事例等の対応支援を行う。 (4) 総合的質管理委員会、業務標準化委員会と連携し、医療の質向上に努める。 (5) 部門横断的な質改善活動等、院内の医療の質改善活動の支援を行う。 (6) その他、医療の質改善に関する業務を行う。 モニタリングの具体例 院内死亡事例、院内急変事例、DVT の発症、手術・麻酔に関連した予期せぬ出来事 など	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（８件）、及び許可件数（８件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、高難度新規医療技術の責任者として業務を掌理する
 - (2) 高難度新規医療技術の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
 - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（５件）、及び許可件数（５件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する
 - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
 - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 2 3 8 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 9 4 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告
 - (2) (1)の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有）（病院名：徳島大学）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有）（病院名：千葉大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
特に技術的助言はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者支援センターに入退院・総合相談部門を置き、患者相談業務を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
6 月及び 1 月に 2 回実施。
 - (6 月) ・ VTE（静脈血栓塞栓症）診療 基本のキ
 - ・患者さんを守る感染対策の基本
 - ・抗菌薬治療開始前に実施すべきこと
 - ・平成 30 年度における薬剤関連のインシデントについて
 - ・MRI 検査における注意事項
 - (1 月) ・インフォームドコンセントのマニュアル改定について
 - ・患者さんと自分を守る標準予防策
 - ・抗菌薬の適正使用について
 - ・医療機器の安全使用について

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構が実施する令和元年度特定機能病院管理者研修を次のとおり受講した。

管理者（第3回（2020年1月7日））、医療安全管理責任者（第2回（2019年12月16日））、医薬品安全管理責任者（第1回（2019年10月11日））

※医療機器安全管理責任者は、申込時に当該研修の参加申込者数が定員に達していたため、令和元年度の研修を受講できなかった。（参考：平成30年度特定機能病院管理者研修については、2018年11月23日に受講した。）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 病院長は、人格が高潔で、学識に優れ、大学附属病院の運営に関し識見を有し、かつ以下の資質・能力を備えていることが求められる。 (1) 医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。 (2) 大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。 (3) 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。 (4) 神戸大学医学部附属病院の理念・基本方針を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。 - 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) - 公表の方法 神戸大学ホームページに掲載
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有 ☐ 無			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無) - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) - 公表の方法 神戸大学ホームページに掲載				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
水谷 文俊	神戸大学理事(総括 ・総務・企画担当)	○	理事のうち学長が指名した者	☒ 有 ☐ 無
杉村 和朗	神戸大学理事(病院 ・学生・危機管理)		理事のうち学長が指名した者	☒ 有 ☐ 無

	担当)			
藤澤 正人	神戸大学大学院医学研究科長		医学研究科長（役職指定）	有・無
安田 尚史	神戸大学大学院保健学研究科長		保健学研究科長（役職指定）	有・無
飯島 一誠	神戸大学医学部附属病院小児科診療科長・教授		医学部附属病院において診療科長を兼務する神戸大学の教員のうちから、学長が指名した者	有・無
置塩 隆	神戸市医師会 会長		学長が委嘱する学外の有識者 一般社団法人神戸市医師会 会長として、医学・医療全般について高い識見を有し、神戸市を含めた地域医療における医療政策について助言をいただくため、選定する	有・無
上田 裕一	地方独立行政法人奈良県立病院機構 理事長		学長が委嘱する学外の有識者 地方独立行政法人奈良県立病院機構 理事長として、病院運営・管理はもとより、医学・医療全般について高い識見を有し、兵庫県外からの見地に立った助言をいただくため、選定する	有・無
川嶋 成乃亮	大阪府済生会中津病院 院長		学長が委嘱する学外の有識者 大阪府済生会中津病院 院長として、病院運営・管理はもとより、医学・医療全般について高い識見を有し、兵庫県外からの見地に立った助言をいただくため、選定する	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 (1) 主要人事（企画・管理部門の長，診療科長，中央診療施設等の長，薬剤部長，看護部長及び医療技術部長）に関する事項 (2) 病院組織の改編に関する事項 (3) 人事制度，定員の変更に関する事項 (4) 予算の配分及び執行並びに決算に関する事項 (5) その他答申を行うべき事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ホームページ及び業務連絡会議にて報告 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☒ 有・無） ・公表の方法 ホームページ ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☒ 無）※規則上は、意見を聴取できることとなっているが、令和元年度は聴取していない。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
平田 健一	○	大学教員（医師）	病院長
味木 徹夫		大学教員（医師）	国際がん医療・研究センター長
溝渕 知司		大学教員（医師）	副病院長
中村 誠		大学教員（医師）	副病院長
眞庭 謙昌		大学教員（医師）	副病院長
西村 善博		大学教員（医師）	副病院長
藤原 由佳		看護師	副病院長
前田 英一		大学教員（医師）	病院長補佐
伊藤 智雄		大学教員（医師）	病院長補佐
掛地 吉弘		大学教員（医師）	病院長補佐
佐々木 良平		大学教員（医師）	病院長補佐
小林 和幸		大学教員（医師）	企画・管理部門の長
永井 洋士		大学教員（医師）	企画・管理部門の長
河野 誠司		大学教員（医師）	企画・管理部門の長
青井 貴之		大学教員（医師）	企画・管理部門の長
坂口 一彦		大学教員（医師）	診療科長
西 慎一		大学教員（医師）	診療科長
森信 暁雄		大学教員（医師）	診療科長

児玉 裕三		大学教員（医師）	診療科長
小川 渉		大学教員（医師）	診療科長
松本 理器		大学教員（医師）	診療科長
南 博信		大学教員（医師）	診療科長
岩田 健太郎		大学教員（医師）	診療科長
村上 卓道		大学教員（医師）	診療科長
飯島 一誠		大学教員（医師）	診療科長
錦織 千佳子		大学教員（医師）	診療科長
曾良 一郎		大学教員（医師）	診療科長
木澤 義之		大学教員（医師）	診療科長
福本 巧		大学教員（医師）	診療科長
國久 智成		大学教員（医師）	診療科長
岡田 健次		大学教員（医師）	診療科長
尾藤 祐子		大学教員（医師）	診療科長
黒田 良祐		大学教員（医師）	診療科長
篠山 隆司		大学教員（医師）	診療科長
丹生 健一		大学教員（医師）	診療科長
藤澤 正人		大学教員（医師）	診療科長
山田 秀人		大学教員（医師）	診療科長
寺師 浩人		大学教員（医師）	診療科長
原岡 剛一		大学教員（医師）	診療科長
明石 昌也		大学教員（歯科医師）	診療科長
小谷 穰治		大学教員（医師）	診療科長
酒井 良忠		大学教員（医師）	診療科長
三枝 淳		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
大竹 寛雅		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
豊永 高史		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
宮良 高維		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
杉本 幸司		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
高橋 路子		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
福沢 公二		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
松本 賢亮		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
松岡 広		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
矢野 育子		薬剤師	薬剤部長
丸山 孝樹		理学療法士	医療技術部長
曾谷 祐一		事務職員	事務部長
杉村 和朗		大学教員（医師）	理事
小林 大介		大学教員	情報分析推進室副室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
ホームページ
- ・ 規程の主な内容
医学部附属病院規則第3条第2項に「病院長は、病院全般の管理、運営を総括し、所属職員（病院配置教員を含む。）を監督する。」とある。
職員の任免については、病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
主要人事（企画・管理部門の長、診療科長、中央診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）及び予算の配分等の重要事項については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
以上のことから、病院長に一定の人事・予算執行権限が付与されていることを明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 神戸大学医学部附属病院副病院長設置要項を定めており、副病院長は、病院長の職務を分担し、病院長不在の際はその職務を代行することとなっている。
 - ・ 神戸大学医学部附属病院病院長補佐設置要項を定めており、病院長補佐は、病院の管理運営等に関する個別の具体的事項について企画立案を行い、病院長に提言することとなっている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 人事について
病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
また、主要人事（企画・管理部門の長、診療科長、中央診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
 - ・ 研修について
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2019年度特定機能病院管理者研修」を病院のマネジメントを担う者（管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者）に受講させ、その育成を行っている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 下記業務について、病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行う (1) 医療安全管理に係る体制 (2) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況 (3) 医療の質・安全管理部の業務の状況 (4) 医療に係る安全管理のための委員会等の業務の状況 (5) その他医療安全管理に関して必要な事項 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 (有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 (有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有)・無) ・ 公表の方法：ホームページ					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診 療部長/内科主任科 部長/医療安全管理 部長/医療安全推進 室長	○	医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・無	1
丸山 英二	京都府立医科大学大 学院医学研究科 客 員教授 (非常勤)		医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・無	1
武田 高	関西住宅品質保証株 式会社監査役 (非常勤)		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制については、国立
大学法人神戸大学内部監査規程（平成 16 年 4 月 1 日制定）に定める内部監査その
他の本学において実施する各種監査により整備されている。
なお、管理者は、内部統制システム（e-learning）研修を受講し、病院における
内部統制システム実施状況を定期的に学長に報告している。
学長は、報告の結果必要と認めるときは、内部統制委員会の議を経て改善を管理
者に命ずる。
管理者は、改善内容及び結果について学長に報告する。
- ・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
ホームページ

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）による特定機能病院（医学部附属病院）の業務の監督に係る体制については、病院業務監督会議において、病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の附属病院の管理運営に関する重要事項について監督されており、確保されている。 病院業務監督者会議 ・ 会議体の実施状況（ 年 1 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 1 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 ホームページ			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
杉村 和朗	神戸大学	○	☒ 有 ・ 無
平田 健一	神戸大学医学部附属病院		☒ 有 ・ 無
上田 裕一	奈良県立病院機構		有 ・ ☒ 無
木下 芳一	製鉄記念広畑病院/姫路循環器病センター		有 ・ ☒ 無
森 悦朗	大阪大学大学院連合小児発達学研究科		有 ・ ☒ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無） ・ 通報件数（年〇件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無） ・ 周知の方法 神戸大学医学部附属病院ホームページや、医療者全員に配布するポケットマニュアルに掲載している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：平成 2 7 年 1 2 月（認定期間 平成27年3月28日～平成32年3月27日）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：病院ホームページに掲載 内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科等)、腫瘍センター（腫瘍・血液内科、緩和 支持治療科等）、I C Uにて複数の診療科が連携し対応。	